

科目名	臨床心理学特論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	前期
担当者名	西村 秀明	関連する資格		

授業概要

臨床心理学の適用領域と臨床心理業務の実際について講義するとともに、各領域での事例を通して心理的援助の具体的方法について議論し学修する。

到達目標

各問題について、十分理解し、心理臨床に役立てることが可能になることを目標とする。

成績評価方法

定期試験及びレポート等により総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○					60
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション		○		○			20
グループワーク							20
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 臨床心理学の領域及び倫理綱領 【予習】心理臨床に携わる専門家としての倫理について学習しておく(90分)。【復習】心理臨床家を目指す者としての姿勢を習得する(60分)。	
2) 気分障害を認めることのある神経症性障害 【予習】気分障害について学習しておくこと(90分)。【復習】気分障害における諸特徴と多角的な支援の方法を習得する(60分)。	
3) 医療スタッフの連携及びケースマネジメント並びに自助グループについて 【予習】医療機関における専門職の役割について学習しておく(90分)。【復習】専門職としてのチームによる支援の在り方を習得する(60分)。	
4) 生活技能訓練SST 【予習】SSTの構造について学習しておく(90分)。【復習】臨床現場で実践できるようSSTの意味するところを習得する(60分)。	グループワーク
5) 心理劇Psychodrama 【予習】心理劇の構造について学習しておく(90分)。【復習】臨床現場で実践できるよう心理劇の意味するところを習得する(60分)。	グループワーク
6) DSM診断基準() 【予習】DSM-5を読む。【復習】DSM-5による診断基準を習得する。	
7) DSM診断基準() 【予習】同。【復習】同。	
8) DSM診断基準() 【予習】同。【復習】同。	
9) 事例研究 予習】あらかじめ事例課題を出すので分析して臨む(240分)。【復習】事例に対する心理構造及び支援の在り方について理解を深める(60分)。	【グループワーク
10) 事例研究 予習】同。【復習】同。	【グループワーク
11) 事例研究 予習】同。【復習】同。	【グループワーク
12) 事例研究 予習】同。【復習】同。	【グループワーク
13) 事例研究 予習】同。【復習】同。	【グループワーク
14) 事例研究 予習】同。【復習】同。	【グループワーク
15) 事例研究 / 及び総括 予習】同。【復習】同、及び心理支援に関わる多角的な視野を習得する。	【グループワーク/レポート
授業外学習	
心理臨床に関する文献、精神医学等の専門書において学習を重ねていくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
DSM 医学書院	臨床心理学特論 はじめ、心理臨床に関する全科目

課題に対するフィードバック

グループによって提出された事例分析についてスーパービジョンによりフィードバックする。

備考

科目名	臨床心理学特論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	後期
担当者名	高田 晃	関連する資格		

授業概要

臨床心理士の行う心理的支援について、歴史的、対象、具体的な活動（心理アセスメント、心理面接、心理的地域援助、臨床心理学的調査研究）について理解を深める。
臨床心理学的活動を行う際の倫理の問題について理解を深める。
決められた担当箇所についてまとめてレジュメを作成、それを基にプレゼンテーションを行い、全員でディスカッションをする。

到達目標

臨床心理学の基本的活動である（心理アセスメント、心理面接、心理的地域援助、臨床心理学的調査研究）を理解する。
臨床心理学における倫理の問題について理解する。

成績評価方法

授業態度、授業参加度
毎回のミニレポート
全ての授業を終了後、テーマを設定したレポート。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート	○	○	○		○		20
宿題、授業外レポート	○	○	○		○		30
授業態度・授業参加度		○	○		○		25
プレゼンテーション	○	○	○		○		25
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 臨床心理学の成立と定義（APA, 日本の実情） 参考図書の該当する章を熟読しておく 授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する"	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
2) 臨床心理学の独自性（対象、実践の学、心理査定、面接、地域援助、研究調査） 参考図書の該当する章を熟読しておく 授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する"	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
3) 臨床心理学の歴史的側面からの理解（諸外国） 参考図書の該当する章を熟読しておく 授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する"	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
4) 日本の臨床心理学の歴史 参考図書の該当する章を熟読しておく 授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する"	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
5) 臨床心理士資格の誕生と展開 参考図書の該当する章を熟読しておく 授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する"	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
6) 臨床心理士の現状と今後の課題 参考図書の該当する章を熟読しておく 授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する"	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
7) 臨床心理学の対象（活動領域、クライアント） 参考図書の該当する章を熟読しておく 授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する"	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
8) 臨床心理学の対象（治療教育と予防の統合） 参考図書の該当する章を熟読しておく 授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する"	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
9) 臨床心理学の対象（取り扱う心の問題） 参考図書の該当する章を熟読しておく 授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する"	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
10) 臨床心理学の援助論（心理的援助の内容） 参考図書の該当する章を熟読しておく 授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する"	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
11) 臨床心理学の援助論（心理的援助の方法） 参考図書の該当する章を熟読しておく 授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する"	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
12) 臨床心理学の援助論（心理的援助の学び方） 参考図書の該当する章を熟読しておく 授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する"	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
13) 臨床心理学における倫理問題（職業的倫理の特性） 参考図書の該当する章を熟読しておく 授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する"	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
14) 臨床心理学における倫理問題（実際の活動場面での倫理的トラブル） 参考図書の該当する章を熟読しておく 授業中説明した重要な専用後について正しく理解し暗記する"	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
15) 臨床心理学における倫理問題（日本臨床心理士会倫理規定） 参考図書の該当する章を熟読しておく 授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する"	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
授業外学習	
発表者は担当単元のレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備をしておく。 次回授業の単元を熟読し、ディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
臨床心理学原論、大塚義孝編 誠信書房	臨床心理に関連するあらゆる科目、特に 臨床心理面接特論、臨床心理学特論

課題に対するフィードバック

授業中の疑問や気づき、及び感想などの小レポートについて、修正や再度の説明が必要な個所について次回の授業で口頭で説明する。

備考

オフィスアワー：木曜日・金曜日の昼休み時間

科目名	心理学研究法特論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	後期
担当者名	三島 瑞穂	関連する資格		

授業概要

人間の心の働きは直接捉えることができないため、科学的に研究することが非常に難しいが、さまざまな工夫によって巧みに研究されてきた。どのようにして心を研究するのかといった研究法の理解は、心理学の知識の理解を深める上で極めて重要である。本授業では主に講義を通して、心の働きを科学的に研究するための基本的考え方やさまざまな方法について学ぶ。特に心理学研究法では従来の心理学研究に慣れ、科学的な考え方を身につける。また、それぞれの研究法について特徴や他の方法との違いを説明できるようにする。

到達目標

心理学の論文を理解し、引用できるようになる。
 質的研究と量的研究の方法を理解する。
 グループで質的研究を演習で行う。
 グループで質問紙調査を演習で行う。

成績評価方法

- ・レポート(40%)
- ・授業態度(15%)
- ・演習他(45%)

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート	○	○	○	○	○		20
宿題、授業外レポート	○	○	○	○	○		20
授業態度・授業参加度	○	○	○	○	○		15
プレゼンテーション	○	○	○	○	○		5
グループワーク	○	○	○	○	○		20
演習	○	○	○	○	○		10
実習	○	○	○	○	○		10

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション（研究倫理） 復習：研究倫理と自分の予定する研究を照らし合わせ、倫理審査の必要性、倫理的な問題の有無の確認を行う(30分)	
2) 研究デザインに関するブレインストーミング 予習：リサーチクエストをある程度、考えておく(20分)！ 復習：研究方法について検討し、文献を収集する(30分)	ブレインストーミング グループワーク
3) 参考文献・資料の収集、読解、活用 予習：文献を収集し、USBに保存するか印刷しておく(30分) 復習：追加の資料の収集と要約(60分)	体験学習
4) 先行研究の活用方法：批判的思考と統合的思考 予習：リサーチクエストの再検討(30分) 復習：研究方法、仮設の再検討(30分)	体験学習
5) 研究法の紹介（質問紙調査法） 予習：自分自身のリサーチクエストを基に質問紙調査の準備（仮）をするため、その資料を集めておく（30分） 復習：質問紙調査を実施する場合には、改めて担当教員と相談する（30分）	体験学習
6) 研究法の紹介（面接調査法） 予習：自分自身のリサーチクエストを基に面接調査の準備（仮）をするため、その資料を集めておく（30分） 復習：質問紙調査を実施する場合には、改めて担当教員と相談する（30分）	体験学習
7) 研究法の紹介（文献研究・事例研究） 予習：自分のリサーチクエストを基に、文献研究をするため、その資料を用意する。（30分） 復習：授業で行った内容を概観し、完成度の高いものにしていく（60分）	体験学習
8) 研究計画を立ててみる 授業内で上の3つの研究法を組み合わせた研究計画を立てる。 復習：研究計画が実施可能かどうか、指導教官もしくは授業担当教員に相談し、より精査する(30分)	体験学習
9) 研究計画の発表の講評 予習：授業内で研究計画を発表するため、その準備を行う（60分） 復習：指摘された箇所を修正しておく（30分）	体験学習
10) 文献のメタ分析 予習：自分の研究テーマに関係する文献を、論文検索サイトで一通り調べておく（30分） 復習：授業内で興味を深めた内容について、さらに文献を探し、読んでおく(30分)	体験学習
11) 面接法を実際にグループで実施する 予習：面接法を実施するに当たり、準備を行っておく（30分） 復習：面接法を実施するための練習をしておく（30分）	グループワーク
12) 面接法を実施し、質的分析を行う 復習：面接法で得られたデータの分析が終わっていないグループは分析を行う。データをどう使うか、検討する（30分）	グループワーク
13) 質問紙調査を実際にグループで実施する 予習：質問紙調査を実施するに当たり、注意点や方法を書く二にしておく(30分) 復習：実施方法についての問題点を検討する（30分）	グループワーク
14) 質問紙調査を実施し、量的分析を行う 復習：データの分析をさらに自分なりに展開してみる（60分） その際に出た疑問や課題は担当教員に相談に来ること。	グループワーク
15) 総括 復習：この授業の中で、まだ習得できていないと感じている内容や関心が深まり深く学びたい内容をまとめておく（30分）	
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
【テキスト】 必要に応じて用意する 【参考書】 村井潤一郎(編) (2012). Progress & Application 心理学研究法 サイエンス社	心理統計法演習

課題に対するフィードバック

レポート課題を次週以降にグループで互いに確認して合い、理解が不十分な点は担当教員から説明を随時、補足していく。

備考

科目名	心理統計法特論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	前期
担当者名	三島 瑞穂	関連する資格		

授業概要

SPSSやEXCELを用いて質問紙調査におけるデータの取り扱いと分析の仕方、論文の統計的記述の読み取り方を学ぶ。修士論文や心理職として調査を行う際に、自力で質問紙の作成とデータの収集、処理、分析、記述ができるよう、座学ではなく、デモデータを用いて様々な検定方法を学ぶ。具体的にはカイ二乗検定、t検定、分散分析、重回帰分析、因子分析を習得する。また各検定の結果について、心理学独特の書き方についても紹介する。授業は説明後、2,3人で一組となり、学び合いながら進め、授業についていけない学生を作らないようにする。

到達目標

- 心理学の論文を理解し、引用できるようになる。
- 質問紙調査を中心に、量的研究の方法を理解する。
- 研究の目的に応じて適切な尺度を用意できるようになる。
- 様々な分析方法を習熟し、データと目的に応じて使い分ける。
- 学術論文として相応しい結果の記述ができる。

成績評価方法

- ・レポート(40%)
- ・授業態度(15%)
- ・演習他(45%)

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート		○	○	○	○		20
宿題、授業外レポート		○	○	○	○		20
授業態度・授業参加度		○	○	○	○		15
プレゼンテーション		○	○	○	○		5
グループワーク		○	○	○	○		20
演習		○	○	○	○		10
実習		○	○	○	○		10

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション 研究テーマに関するグループディスカッション	
2) クリティカルシンキング 復習：自分のリサーチクエストionsについて、クリティカルシンキングを行う（30分）	ブレンストーミング グループワーク
3) 文献研究 復習：自分のリサーチクエストionsについて文献研究を行う（60分）	体験学習 レポート課題
4) 質問紙調査法の復習 研究デザインの検討 復習：自分自身の研究方法について検討しておく（30分）	体験学習 レポート課題
5) t検定（対応のある場合と無い場合）適用範囲と方法、結果の記述（以下同様） 復習：実際に統計分析をPCで実施し、手法に慣れておく（30分）	体験学習 レポート課題
6) 一要因の分散分析（対応のある場合と無い場合） 復習：実際に統計分析をPCで実施し、手法に慣れておく（30分）	体験学習 レポート課題
7) 二要因の分散分析（対応のある場合と無い場合） 復習：実際に統計分析をPCで実施し、手法に慣れておく（30分）	体験学習 レポート課題
8) 重回帰分析とそのパス図の書き方 復習：実際に統計分析をPCで実施し、手法に慣れておく（30分）	体験学習 レポート課題
9) 因子分析 復習：実際に統計分析をPCで実施し、手法に慣れておく（30分）	体験学習 レポート課題
10) カイ二乗検定と因子分析 復習：実際に統計分析をPCで実施し、手法に慣れておく（30分）	体験学習 レポート課題
11) t検定と因子分析 復習：実際に統計分析をPCで実施し、手法に慣れておく（30分）	体験学習 レポート課題
12) 一要因の分散分析と因子分析 復習：実際に統計分析をPCで実施し、手法に慣れておく（30分）	体験学習 レポート課題
13) 二要因の分散分析と因子分析 復習：実際に統計分析をPCで実施し、手法に慣れておく（30分）	体験学習 レポート課題
14) 重回帰分析と因子分析 復習：実際に統計分析をPCで実施し、手法に慣れておく（30分）	体験学習 レポート課題
15) まとめ 予習：研究計画を立てて発表準備を行う 復習：内容に関して指導教官、担当教員と精査する（30分）	体験学習
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>【テキスト】 必要に応じて用意する</p> <p>【参考書】 村井潤一郎(編) (2012). Progress & Application 心理学研究法 サイエンス社</p>	心理学研究法演習

課題に対するフィードバック

レポート課題を次週以降にグループで互いに確認して合い、理解が不十分な点は担当教員から説明を随時、補足していく。

備考

科目名	心の健康教育に関する理論と実践			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	前期
担当者名	梶本 知子	関連する資格	公認心理師 臨床心理士	

授業概要

健康教育の定義 (Geen & Kreuter, 1991) に基づくと、心の健康教育とは、心身の健康の維持・向上につながる自発的な行動を育成するために計画された学習経験の組合せで、ヘルス・プロモーションの柱のひとつである。本講義では、第一に心の健康教育に関する代表的な理論とアプローチについて理解することを目的とする。そして、心の健康教育プログラムを立案・実施し、また参加者として体験することで、心の健康教育に対する理解を深め、実践のスキルを磨くことを第二の目的とする。

到達目標

心の健康教育に関する理論・モデルを説明することができる。
 心の健康教育を実践した先行研究に関するレジюмеを作成し、説明することができる。
 心の健康教育の理論・モデルに基づいて、プログラムを立案することができる。
 立案した心の健康教育プログラムを適切に実施することができる。
 心の健康教育プログラムの効果評価を行うことができる。

成績評価方法

授業内レポート 5%
 授業外レポート 30%、
 レジюме発表およびプレゼンテーション 40%
 グループワーク 25%
 で評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							5
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							40
グループワーク							25
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 心の健康教育の意義とその領域 【予習】授業で扱う理論について調べ、レジュメにまとめる（90分以上） 【復習】資料を再読し、理論を説明できるようにする（90分以上）	授業内レポート
2) 心の健康教育に関する理論 トランスアクションル・モデル 【予習】授業で扱う理論について調べ、レジュメにまとめる（90分以上） 【復習】資料を再読し、理論を説明できるようにする（90分以上）	レジュメ発表
3) 心の健康教育に関する理論 トランスセオレティカル・モデル（TTM） 【予習】授業で扱う理論について調べ、レジュメにまとめる（90分以上） 【復習】資料を再読し、理論を説明できるようにする（90分以上）	レジュメ発表
4) 心の健康教育に関する理論 セルフ・マネジメントモデル 【予習】授業で扱う理論について調べ、レジュメにまとめる（90分以上） 【復習】資料を再読し、理論を説明できるようにする（90分以上）	レジュメ発表
5) 心の健康教育におけるアプローチ 認知行動療法・集団療法 【予習】授業で扱う理論・技法を調べ、レジュメにまとめる（90分以上） 【復習】資料を再読し、理論・技法を説明できるようにする（90分以上）	レジュメ発表・グループワーク
6) 心の健康教育におけるアセスメント 【予習】資料で扱う方法について調べ、レジュメにまとめる（90分以上） 【復習】資料を再読し、方法を説明できるようにする（90分以上）	レジュメ発表
7) 心の健康教育の実践例 アサーション・トレーニング 【予習】資料で扱う実践方法について調べる（90分以上） 【復習】資料を再読し、実践方法をシミュレーションする（90分以上）	グループワーク・ロールプレイ
8) 心の健康教育の実践例 ストレス・マネジメント教育 【予習】資料で扱う実践方法について調べる（90分以上） 【復習】資料を再読し、実践方法をシミュレーションする（90分以上）	グループワーク
9) 心の健康教育の実践例 抑うつ予防プログラム 【予習】資料で扱う実践方法について調べる（90分以上） 【復習】資料を再読し、実践方法をシミュレーションする（90分以上）	グループワーク
10) 心の健康教育の実践例 ソーシャル・スキルズ・トレーニング 【予習】資料で扱う実践方法について調べる（90分以上） 【復習】資料を再読し、実践方法をシミュレーションする（90分以上）	グループワーク・ロールプレイ
11) 心の健康教育プログラムの立案 【予習】学修した理論とアプローチを整理し、まとめる（90分以上） 【復習】プログラム構成を見直し、方法を具体的にする（90分以上）	グループワーク
12) 心の健康教育プログラムの立案 【予習】プログラムをシミュレーションし改善点をまとめる（90分以上） 【復習】立案したプログラムのリハーサルを行う（90分以上）	グループワーク
13) 心の健康プログラムの実施 【予習】立案したプログラムをリハーサルする（90分以上） 【復習】実施したプログラムのアセスメントを行う（90分以上）	プレゼンテーション・ロールプレイ
14) 心の健康プログラムの実施 【予習】立案したプログラムをリハーサルする（90分以上） 【復習】実施したプログラムのアセスメントを行う（90分以上）	プレゼンテーション・ロールプレイ
15) 総括 【予習】これまでの学修内容をわかりやすくまとめる（90分以上） 【復習】授業内レポートを見直し、加筆・修正を行う（90分以上）	授業内レポート
授業外学習	
<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> レジュメは読み手にわかりやすい構成にして、最後に引用文献を記載すること。 引用文献の書き方は「日本心理学会 執筆・投稿の手びき 2015年改訂版」に則ること <p>【予習・復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> シミュレーションやリハーサルは資料等なしでできるまで、繰り返し行うこと。 	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。</p> <p>参考書：健康心理学・入門 健康なこころ・身体・社会づくり、島井・長田・小玉（編）、有斐閣</p> <p>健康行動と健康教育 理論、研究、実践、曾根・湯浅・渡部・鳩野（訳）、医学書院</p>	産業・労働分野に関する理論と支援の展開

課題に対するフィードバック

- ・レジュメ，グループワーク，プレゼンテーションおよび授業内レポートについては，優れた点と改善点を口頭で即時フィードバックする。
- ・授業外レポートについては，添削して返却する。

備考

科目名	乳幼児心理学特論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	前期
担当者名	太田 列子	関連する資格	臨床心理士	

授業概要

本講義では、乳幼児期の情緒発達、認知発達、社会性発達、道徳性発達について、主な理論や論文を紹介し、乳幼児の心理についての理解を深める。乳幼児の対人世界を理解し、その心理的発達や、重要な養育者である親との相互作用について学ぶ。また、乳幼児の心理的問題や発達上の課題に対する「遊び」の治療的機能について概観することで、乳幼児と養育者にとって必要な支援の在り方を考える。

到達目標

1. 乳幼児期の発達段階ならびに発達課題を理解する。
2. 乳幼児の対人世界を理解し、心理的発達と発達課題について知る。
3. 母子相互作用における親役割の重要性を認識する。
4. 乳幼児と養育者への適切な心理的援助方法を習得する。
5. 「遊び」の治療的機能について学ぶ。

成績評価方法

授業への参加態度、課題への取り組み姿勢、レポート

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート	○	○					10
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度			○	○	○		15
プレゼンテーション							
グループワーク			○	○	○		15
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 乳幼児の発達と成長：ライフサイクルにおける乳幼児期に付いて概観する。 【復習】小レポート作成（30分）	授業外レポート課題
2) 情緒発達と認知発達：乳幼児の情緒発達，概念発達，知能の発達，思考の発達について学習する。 【予習】配布資料を読み理解する（30分）【復習】小レポート作成（30分）	インタラクティブ・インストラクション
3) 愛着の形成と発達：愛着のタイプや測定法を学ぶ。また，乳幼児期にみられる愛着のタイプが後の対人関係形成にどのような影響を及ぼすかを理解する。 【予習】配布資料を読み理解する（30分）【復習】小レポート作成（30分）	インタラクティブ・インストラクション
4) 親子関係と発達：親の躰・養育態度にはどのようなタイプがあるかを理解し，それらが子どもの社会的発達にどのような影響を与えるかについて学習する。 【予習】配布資料を読み理解する（30分）【復習】小レポート作成（30分）	インタラクティブ・インストラクション
5) 仲間関係と発達：友だち概念や発達段階を知る。さらに愛他行動，向社会的行動，攻撃性という視点から仲間関係の在り方を考える。 【予習】配布資料を読み理解する（30分）【復習】小レポート作成（30分）	インタラクティブ・インストラクション
6) 遊びの発達：遊びの種類および発達段階を学習する。また，遊び場面における対人葛藤やその解決方略を知り，介入の在り方を考える。 【予習】配布資料を読み理解する（30分）【復習】小レポート作成（30分）	インタラクティブ・インストラクション
7) 発達課題と発達障害：乳幼児の心理的問題や発達上の問題・障害と心理査定法について学習する。 【予習】配布資料を読み理解する（30分）【復習】小レポート作成（30分）	think-pair-share、リフレクションカード
8) 発達課題と発達障害：乳幼児の心理的問題や発達上の問題・障害と心理査定法について学習する。 【予習】配布資料を読み理解する（30分）【復習】小レポート作成（30分）	think-pair-share、リフレクションカード
9) 遊びの治療的機能：子どもに対する心理療法としての遊び。（遊戯療法） 【予習】配布資料を読み理解する（30分）【復習】グループワークの感想を小レポートにまとめる（60分）	グループワーク、プレゼンテーション、小レポート
10) 遊びの治療的機能：子どもに対する心理療法としての遊び。（遊戯療法） 【予習】配布資料を読み理解する（30分）【復習】グループワークの感想を小レポートにまとめる（60分）	グループワーク、プレゼンテーション、小レポート
11) 遊びの治療的機能：子どもに対する心理療法としての遊び。（遊戯療法） 【予習】配布資料を読み理解する（30分）【復習】グループワークの感想を小レポートにまとめる（60分）	グループワーク、プレゼンテーション、小レポート
12) 事例研究：事例をもとに，乳幼児期の心理的課題についての理解を深める。 【予習】配布資料を読み理解する（30分）【復習】ディスカッションの内容を小レポートにまとめる。（60分）	ディスカッション、リフレクションカード
13) 事例研究：事例をもとに，母子相互作用に関する理解を深める。 【予習】配布資料を読み理解する（30分）【復習】ディスカッションの内容を小レポートにまとめる。（60分）	ディスカッション、リフレクションカード
14) 事例研究：事例をもとに，親-乳幼児心理療法に関する理解を深める。 【予習】配布資料を読み理解する（30分）【復習】ディスカッションの内容を小レポートにまとめる。（60分）	ディスカッション、リフレクションカード
15) まとめ：これまで学んできた事柄を振り返り，本講義での学びに付いて整理する。 【予習】配布資料を読み理解する（30分）【復習】これまでの学びについて小レポートにまとめる（60分）	課題レポート、リフレクションカード
授業外学習	
<p>授業計画に沿って，事前に配布資料を熟読してくること。 授業毎にリフレクションカードと小レポートを提出すること。 レポート課題について，資料をもとにレポート（A4，3～4枚）を作成し、授業最終日に提出すること。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>適宜プリントを配布する。 参考書： 親-乳幼児心理療法 D.N.スターン著 馬場禮子・青木紀久代 訳 岩崎学術出版社 乳児の対人世界（理論編・臨床編） D.N.スターン著 小此 木啓吾他訳 岩崎学術出版社</p>	プレイセラピー演習

課題に対するフィードバック

授業中の小レポートおよびリフレクションカードの記載事項については、次回の授業時にコメントする。

備考

科目名	発達心理学特論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	後期
担当者名	木元 卓也、三島 瑞穂	関連する資格	公認心理師、臨床心理士	

授業概要

発達とは、生涯にわたって質的・量的に変化していく過程として捉えられる。また、それぞれの発達段階には、達成すべき課題があり、この課題の達成をめくり、様々な問題が生じることがある。本講では、各発達段階に現れる問題について検討しながら、各発達段階の基本的知識と支援のあり方について概観する。

到達目標

1. 様々な視点から、各発達段階の特性が理解できる。
2. 各発達段階に現れる問題に様々な視点をふまえて、理解することができる。
3. 各発達段階に現れる問題につき、様々な視点を踏まえて、支援のあり方がイメージできる。

成績評価方法

定期試験、受講態度・プレゼンテーションで評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							40
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							20
グループワーク							20
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) ガイダンス、生涯発達心理学とは 予習) 生涯発達心理学について本を読む 復習) レポートをまとめる	授業内レポート
2) 社会的養護施設における発達支援の対象 予習) 社会的養護施設について調べる 復習) 虐待についてレポートをまとめる	グループワーク
3) 乳児期の理解と支援 予習) 事例プリントを熟読する 復習) 施設と事例についてまとめる	グループワーク
4) 幼児期前期の理解と支援 予習) 事例プリントを熟読する 復習) 施設と事例についてまとめる	グループワーク
5) 幼児期後期の理解と支援 予習) 事例プリントを熟読する 復習) 施設と事例についてまとめる	グループワーク
6) 児童期の理解と支援 予習) 事例プリントを熟読する 復習) 施設と事例についてまとめる	グループワーク
7) 思春期の理解と支援 予習) 事例プリントを熟読する 復習) 施設と事例についてまとめる	グループワーク
8) 青年期の理解と支援 予習) 事例プリントを熟読する 復習) 社会資源と事例についてまとめる	グループワーク
9) 成人期の理解と支援 予習) 事例プリントを熟読する 復習) 社会資源と事例についてまとめる	グループワーク
10) 離婚とひとり親家庭の理解と支援 予習) 事例プリントを熟読する 復習) 法律と社会資源・施設についてまとめる	グループワーク
11) 発達障害の理解と支援 予習) 発達障害について本を読む 復習) レポートをまとめる	グループワーク
12) 発達障害の理解と支援 予習) 発達障害の診断についてまとめる 復習) レポートをまとめる	グループワーク
13) 発達障害の理解と支援 予習) 発達障害の治療についてまとめる 復習) レポートをまとめる	グループワーク
14) 発達障害の理解と支援 予習) SSTについてまとめる 復習) レポートをまとめる	グループワーク
15) まとめ 予習) 発達段階についてまとめる 復習) レポートをまとめる	グループワーク
授業外学習	
本講で概観した知識、グループワークでの検討結果などを元にして、自分なりの理解と支援イメージをまとめておいて下さい。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
必要によりレジュメを配布する。	他の心理学関連科目全般

課題に対するフィードバック

次の授業のときまでにフィードバックを行います。

備考

科目名	産業・労働分野に関する理論と支援の展開			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	後期
担当者名	高田 晃	関連する資格		

授業概要

産業・組織心理学の中でも、特に産業活動の効率化を目指す。人間関係やコミュニケーション、仕事に対するモチベーション、職場のメンタルヘルスに関する内容を扱う。
 特に厚生労働省の「労働者の心の健康の保持増進のための指針」をもとに1次予防、2次予防、3次予防について理解していく。
 決められた担当箇所についてまとめてレジユメを作成、それを基にプレゼンテーションを行い、全員でディスカッションをする。

到達目標

組織で働く人々の心や行動の特徴を説明できる。
 現代の産業が抱える課題を知り、心理学がその課題に対してどのように貢献できるか討議できる。
 職業性ストレスモデルについて説明できる。

成績評価方法

授業態度、授業参加度
 毎回のミニレポート
 全ての授業を終了後、テーマを設定したレポート。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート	○	○	○		○		20
宿題、授業外レポート	○	○	○		○		30
授業態度・授業参加度		○	○		○		25
プレゼンテーション	○	○	○		○		25
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション 産業・組織心理学とは 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
2) 産業・組織心理学が扱うテーマ 組織行動、人事、安全衛生、消費者行動 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
3) 労働者の心の健康保持増進のための指針 電通事件、安全配慮義務 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
4) メンタルヘルスのための4つのケア 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
5) 職業性ストレスモデルの理解 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
6) 心の健康とストレス 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
7) ストレッサー（職場の3大ストレス） 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
8) 仕事の要求度とコントロールモデル 努力-報酬不均衡モデル 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
9) 個人要因の問題 タイプA・B・C、認知のゆがみ 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
10) 緩衝要因、人間関係とストレス、 ソーシャルスキル、ソーシャルサポート 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
11) ストレス反応とメンタルヘルス不調 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
12) 問題解決とラインケア 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
13) ハラスメント問題（セクハラ、パワハラ等） 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
14) 1次予防、2次予防、3次予防（リワーク支援） 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
15) 産業・組織心理学の領域での支援活動 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
授業外学習	
発表者は担当単元のレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備をしておく。 発表者以外の者は次回授業の単元を熟読し、ディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
職場における心の健康づくり、厚生労働省	社会心理学特論・健康心理学特論

課題に対するフィードバック

授業中の疑問や気づき、及び感想などの小レポートについて、修正や再度の説明が必要な個所について次回の授業で口頭で説明する。

備考

オフィスアワー：木曜日・金曜日の昼休み時間

科目名	保健医療分野に関する理論と支援の展開						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	2	1年	前期			
担当者名	秋元 隆志		関連する資格	公認心理師受験資格			
授業概要 保健医療分野は科学的進歩が目覚ましい領域ですが、基本的に対人援助の仕事ですので、臨床心理学的視点が不可欠です。この授業では、保健医療分野活動の現在の状況を概観し理解するとともに、この領域での心理士に対する要請がどのようなものであるかを考えます。							
到達目標 保健医療分野の中でも、精神医学を中心に、現在の状況を理解する。各疾病に対する知識を深めるとともに、チーム医療サイドと患者サイドからの、心理士への要請を考察する。			成績評価方法 定期試験、及びレポート等により総合的に評価する。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 精神医学の成り立ちと歴史	
2) 精神科症状学と精神科診断学	
3) 精神薬理学	
4) 統合失調症	
5) 統合失調症	
6) 気分障害 うつ病	
7) 気分障害 双極性障害	
8) ストレス関連障害（神経症）	
9) ストレス関連障害（神経症）	
10) パーソナリティ障害	
11) 摂食障害、依存	
12) 意識、睡眠、身体疾患に伴う精神障害	
13) 認知症、老年精神医学	
14) 緩和ケア、痛み、周産期医療	
15) 小児精神医学	
授業外学習	
心身医学、精神医学等の専門書において学習を深めておくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目

課題に対するフィードバック

備考

科目名	看護臨床心理学特論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	後期
担当者名	小山 典子	関連する資格		

授業概要

ヒューマン・ケアの現場では、患者の痛み・苦しみを聴くだけでなく、その人の人生そのものに歴史に触れることになる。すなわち、専門知識・技術に加えて、患者の社会・文化的背景を傾聴し、豊かな感情交流の能力が求められる。患者・高齢者や家族、子どもの心理を理解し感情交流の質を上げるために必要な心理臨床を事例など用いて学ぶ。

到達目標

ケアされる側の社会・文化的背景を理解する。
対人援助職に求められるニーズを把握し、必要な心理的支援を説明できる。

成績評価方法

発表資料準備・プレゼンテーション
グループワーク
以上の総合評価とする。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度					○		10
プレゼンテーション				○	○		30
グループワーク	○	○	○				30
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) それぞれの世代の社会文化的背景の心理学的問題について対人援助職としての理解を深める	看護心理臨床にかかわる論文を各自選び発表の順番を決める
2) 病院臨床における患者の心理 【予習】病気像について各自考察する（30分）【復習】授業内容についてレポート（60分）	グループワーク
3) 小児看護と心理臨床 【予習】小児の疾患についての資料を読む（30分）【復習】授業内容についてレポート（60分）	学生によるプレゼンテーション グループワーク
4) 発達障害の理解と心理臨床 【予習】発達障害を抱える人の手記を読む（30分）【復習】授業内容についてレポート（60分）	学生によるプレゼンテーション グループワーク
5) 精神科看護の心理臨床 【予習】精神疾患についての資料を読む（30分）【復習】授業内容についてレポート（60分）	学生によるプレゼンテーション グループワーク
6) 児童・思春期心身症の看護と心理臨床 【予習】児童・思春期についての資料を読む（30分）【復習】授業内容についてレポート（60分）	学生によるプレゼンテーション グループワーク
7) 慢性疾患の看護と心理臨床 脳器質性疾患の看護・介護と心理臨床 【予習】慢性疾患についての資料を読む（30分）【復習】授業内容についてレポート（60分）	学生によるプレゼンテーション グループワーク
8) 脳器質性疾患の看護・介護と心理臨床 【予習】脳器質性疾患についての資料を読む（30分）【復習】授業内容についてレポート（60分）	学生によるプレゼンテーション グループワーク
9) 妊娠・出産の看護と心理臨床 【予習】周産期母子医療についての資料を読む（30分）【復習】授業内容についてレポート（60分）	学生によるプレゼンテーション グループワーク
10) ガン患者の痛みと心理臨床 【予習】ガン患者についての資料を読む（30分）【復習】授業内容についてレポート（60分）	学生によるプレゼンテーション グループワーク
11) 高齢者看護・介護と心理臨床 【予習】高齢者医療・介護についての資料を読む（30分）【復習】授業内容についてレポート（60分）	学生によるプレゼンテーション グループワーク
12) ターミナルケアの心理臨床 終末期患者と死の受容 【予習】終末期医療についての資料を読む（30分）【復習】授業内容についてレポート（60分）	学生によるプレゼンテーション グループワーク
13) 難病患者への心の支援 【予習】難治性疾患についての資料を読む（30分）【復習】授業内容についてレポート（60分）	グループワーク
14) 家族を支える看護と心理臨床 【予習】患者家族の心理的支援についての資料を読む（30分）【復習】授業内容についてレポート（60分）	グループワーク
15) 総括	
授業外学習	
地域社会の情報から特に医療・看護における心理学的なアプローチが必要と思われるエピソードについて日ごろから考察する。各受講生が自ら選んだ研究論文を理解しまとめ考察する。その内容の資料（パワーポイント可）を作成し発表する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト：必要に応じて資料を配布する。</p> <p>参考書： 人間理解の心理学 こころの物語のよみ方，岡堂哲雄 監修，新曜社 心理臨床的支援の方法 カウンセリングのすすめ，菅佐和子 編，新曜社</p>	<p>患者論 保健医療分野に関する理論と支援の展開</p>

課題に対するフィードバック

各学生のプレゼンテーション後コメントをかえす

備考

科目名	教育分野に関する理論と支援の展開						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	2	1年	前期			
担当者名	高田 晃		関連する資格				
授業概要 学校カウンセリングについて、基本的な知識と技術を養成することを目的とする。 そのため、学校カウンセリングにおいて問題となる種々の事項について、講義するとともに学生自身が文献をもとに研究する。 また、不登校や発達障害などをはじめとして、学校カウンセリングで取り扱う事例を紹介し、その討議をとおりて理解を深める。 発表者は決められたテーマについてまとめてレジュメを作成、それを基にプレゼンテーションを行い、全員でディスカッションし理解を深めていく。							
到達目標 学校場面での問題行動について理解し意見を述べることができる。 学校カウンセリングについて、基本的知識と技術を説明できる。 学校場面での具体的活動について理解し説明できる。			成績評価方法 毎回のミニレポート 全ての授業を終了後、テーマを設定したレポート。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート	○	○	○		○		20
宿題、授業外レポート	○	○	○		○		30
授業態度・授業参加度		○	○		○		25
プレゼンテーション	○	○	○		○		25
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション 次回授業の単元を熟読し、練習問題をやっておく。授業で織り上げられる専門用語を事前に調べ理解しておく。ディスカッションのため自分の意見をまとめておく。	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
2) 学校カウンセリング体験の紹介 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。、	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
3) 学校カウンセリングの取り入れられた背景 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。、	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
4) 学校組織と学校カウンセリング 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。、	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
5) 学校カウンセラーの活動内容 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。、	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
6) 学校カウンセリングの特徴 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。、	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
7) 教師との連携 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。、	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
8) 保護者との連携 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。、	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
9) 不登校と学校カウンセリング 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。、	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
10) 非行と学校カウンセリング 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。、	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
11) 発達障害と学校カウンセリング 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。、	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
12) 緊急支援（被害・被災）と心のケア 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。、	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
13) 教師のカウンセリング 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。、	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
14) 山口県の現状と課題（学校カウンセラーになるための心得と準備） 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。、	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
15) 総括	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
授業外学習	
発表者は担当単元のレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備をしておく。 次回授業のテーマについて文献で調べ、ディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
授業の都度、紹介する。	臨床心理に関連するあらゆる科目、特に臨床心理面接特論、臨床心理学特論

課題に対するフィードバック

授業中の疑問や気づき、及び感想などの小レポートについて、修正や再度の説明が必要な個所について次回の授業で口頭で説明する。

備考

臨床心理に関連するあらゆる科目、特に臨床心理面接特論、臨床心理学特論

科目名	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	前期
担当者名	小川 昭	関連する資格	公認心理師受験資格	

授業概要

家族とは何かを問い、家族成立のための構成要素を検討するとともに、家族関係の中で起こる様々な問題を考察する。その家族問題に対する心理的援助法の概略を学ぶ。地域社会における家族等への支援について理解を深め、集団的な心理支援や個別のケースにかかわる心理支援を検討していく。

到達目標

1. 様々な家族形態があることを理解し、自らの価値観を押し付けることなく家族への心理支援ができるようになる。
2. 様々な家族問題に対し、各構成員の立場に立った見方が出来るようになる。そして、具体的な支援方法がイメージできるようになる。
3. 家族関係が起因した様々な問題を、集団や地域社会における支援において心理的な支援の役割を理解し実践できる。

成績評価方法

レポート、演習、受講態度で評価する。

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)								
小テスト、授業内レポート							10	
宿題、授業外レポート							50	
授業態度・授業参加度			○		○		10	
プレゼンテーション								
グループワーク			○		○		10	
演習							20	
実習								

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 個人と家族、集団、社会について 【予習】個人・集団（家族）・社会に広がる関係について考察してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	グループワーク
2) 家族の構成要素と役割 【予習】家族の構成員について考察してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	グループワーク
3) 家族の変遷とグループ活動 【予習】家族の変遷について調べてくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	グループワーク
4) グループアプローチの意義や種類 【予習】集団療法について調べてくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	グループワーク
5) 機能不全家族で育った人への心理支援 自助グループにおける心理支援 【予習】アダルトチルドレンについて調べてくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	グループワーク
6) 家族療法（1）家族療法の基礎 【予習】家族療法について調べてくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	グループワーク
7) 家族療法（2）システムズアプローチ 【予習】システムズアプローチの理論について理解してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	グループワーク
8) 家族問題への心理支援の実践（1） 【予習】家族の問題について考察してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	グループワーク
9) 家族問題への心理支援の実践（2） 【予習】家族の問題について考察してくる（30分） 【復習】家族の関係性（家族力動）について振り返り整理する（30分）	演習
10) 家族問題への心理支援の実践（3） 【予習】家族の問題について考察してくる（30分） 【復習】家族の関係性（家族力動）について振り返り整理する（30分）	演習
11) 家族問題への心理支援の実践（4） 【予習】家族の問題について考察してくる（30分） 【復習】家族の関係性（家族力動）について振り返り整理する（30分）	演習
12) 家族問題への心理支援の実践（5） 【予習】家族の問題について考察してくる（30分） 【復習】家族の関係性（家族力動）について振り返り整理する（30分）	演習
13) 家族関係の問題（虐待・DV等） 【予習】虐待・DVについて理解してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	グループワーク
14) 家族関係の問題（虐待・DV等）への地域社会における心理支援 【予習】個人・集団（家族）・社会に広がる関係について考察してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	グループワーク
15) 家族関係・集団・地域社会における心理支援とは（まとめ） 【予習】これまで学んだものを整理してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	グループワーク
授業外学習	
本講で概観した知識、グループワークでの検討結果などを元にして、自分なりの理解と支援イメージをまとめておいて下さい。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
【テキスト】 必要に応じてレジュメを配布する。 【参考書】 家族臨床心理学の基礎 北樹出版	心理学関連科目全般

課題に対するフィードバック

授業の初めに、前回の授業のフィードバックを行う。

備考

オフィスアワー；講義終了後、質問を受け付ける。

科目名	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	後期
担当者名	周布 恭子、受田 恵理	関連する資格	臨床心理士 公認心理師受験資格	

授業概要

非行や犯罪について各種制度や理論を概観するとともに、犯罪被害についての基本的知識を習得する。また、矯正施設で行われている取組を紹介しながら、非行少年に対する理解や対応、心理に関する支援方法への知見を深める。

到達目標

1. 非行・犯罪に関する法律や処遇について理解できる。
2. 非行の理解と支援のために必要となる知識が理解できる。
3. 非行少年に対する支援の在り方について考察できる。

成績評価方法

定期試験、受講態度・意欲で評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							20
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 非行臨床における支援の対象に関する基礎理論 ガイダンス・非行臨床心理学概論 【復習】本単元の内容の理解度を確認しながら復習をする（20分）	授業内レポート
2) 非行臨床に関する基礎理論 非行少年と非行性に対する理解 【予習】事前配布していた資料に対する意見交換（20分） 【復習】本単元の内容の理解度を確認しながら復習する（20分）	
3) 非行臨床における基礎理論 少年法と非行臨床 【予習】事前配布の少年法の資料に対する意見交換（20分） 【復習】本単元に関する小レポートを作成（30分）	
4) 様々な少年非行の実際 万引き 【予習】事前配布の万引きに関する資料に対する意見交換（20分） 【復習】本単元の内容の理解度を確認しながら復習する（20分）	
5) 様々な少年非行の実際 薬物非行 【予習】事前配布の薬物非行に関する文献に対する意見交換（20分） 【復習】本単元の内容の理解度を確認しながら復習する（20分）	
6) 様々な少年非行の実際 性非行と女子非行 【予習】事前配布の性・女子非行の資料に対する意見交換（20分） 【復習】本単元の内容の理解度を確認しながら復習する（20分）	
7) 様々な少年非行の実際 暴力非行・暴走族 【予習】事前配布の少年非行に関する資料に対する意見交換（20分） 【復習】本単元の内容の理解度を確認しながら復習する。	
8) 様々な少年非行の実際 いじめと児童虐待 【予習】いじめ・虐待の実態に関して事前調査・意見交換（20分） 【復習】本単元内容に関する小レポートを作成（30分）	
9) 矯正処遇における心理臨床 精神分析学 【予習】事前に配布した資料に関して意見交換（20分） 【復習】本単元の内容の理解度や支援に関して確認する（20分）	
10) 矯正処遇における心理臨床 家族療法 【予習】家族療法に関して調べ、意見交換（20分） 【復習】本単元の内容の理解度や支援に関して確認する（20分）	
11) 矯正処遇における心理臨床 認知行動療法 【予習】認知行動療法に関して調べ、意見交換（20分） 【復習】本単元の内容の理解度や支援に関して確認する（20分）	
12) 矯正処遇における心理臨床 非行カウンセリング 【予習】非行カウンセリングの論文を事前配布・意見交換（20分） 【復習】本単元を振り返り、自分なりの支援について検討（20分）	
13) 矯正処遇における心理臨床 援助技法の実際（ロールレタリングを用いた対応） 【予習】事前配布資料の意見交換【復習】支援策を検討（各30分）	グループワーク
14) 矯正処遇における心理臨床 援助技法の実際（マインドフルネス、フォーカシング技法） 【予習】事前配布資料の意見交換【復習】支援策を検討（各30分）	グループワーク
15) 修復的司法・まとめ 【予習】これまでの単元内容の復習をする（30分） 【復習】小レポートを作成（30分）	授業内レポート
授業外学習	
本講で概観した知識、グループワークでの検討結果などを元にして、自分なりの理解と支援イメージをまとめておいて下さい。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
必要に応じてレジユメを配布する。 【参考書】 ・犯罪・非行の心理学 有斐閣ブックス ・非行臨床の新潮流 金剛出版	心理学関連科目全般

課題に対するフィードバック

定期的に授業内容を振り返る小レポート課題を出し、小レポートに対してはコメントを付けてフィードバックをする。

備考

科目名	福祉分野に関する理論と支援の展開			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	前期
担当者名	宮崎 博子	関連する資格	公認心理師受験資格	

授業概要

公認心理師の働く福祉分野は乳幼児期から高齢期までの人々を対象としており、さまざまな心理社会的課題を抱えている。それぞれの福祉現場における関係法規・制度や機関・施設の概要と業務について学ぶ。また、各福祉現場において遭遇する課題に関しての適切な支援ができるよう事例を取り上げて学ぶ。

到達目標

1. 各福祉分野における実践内容を理解できる。
2. 各福祉分野における必要な支援について説明できる。

成績評価方法

定期試験、小レポート、授業態度、グループワーク参加度で評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート		○	○				10
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) ガイダンス、公認心理師が働く福祉現場の実情と課題 【予習】テキストを読んでおく（60分）【復習】理解できたこと・疑問点・改めて調べたことをレポートする（90分）	小レポート
2) 福祉現場における理論の展開（1）児童を対象とした機関・福祉施設の概要と業務 【予習】テキストを読んでおく（60分）【復習】理解できたこと・疑問点・改めて調べたことをレポートする（90分）	小レポート
3) 福祉現場における理論の展開（2）児童を対象とした機関・福祉施設の概要と業務 【予習】テキストを読んでおく（60分）【復習】理解できたこと・疑問点・改めて調べたことをレポートする（90分）	小レポート
4) 福祉現場における理論の展開（3）児童を対象とした機関・福祉施設の概要と業務 【予習】テキストを読んでおく（60分）【復習】理解できたこと・疑問点・改めて調べたことをレポートする（90分）	小レポート
5) 福祉現場における理論の展開（1）障害児（者）を対象とした機関・福祉施設の概要と業務 【予習】テキストを読んでおく（60分）【復習】理解できたこと・疑問点・改めて調べたことをレポートする（90分）	小レポート
6) 福祉現場における理論の展開（2）障害児（者）を対象とした機関・福祉施設の概要と業務 【予習】テキストを読んでおく（60分）【復習】理解できたこと・疑問点・改めて調べたことをレポートする（90分）	小レポート
7) 福祉現場における理論の展開（3）障害児（者）を対象とした機関・福祉施設の概要と業務 【予習】テキストを読んでおく（60分）【復習】理解できたこと・疑問点・改めて調べたことをレポートする（90分）	小レポート
8) 福祉現場における理論の展開（1）高齢者を対象とした機関・福祉施設の概要と業務 【予習】テキストを読んでおく（60分）【復習】理解できたこと・疑問点・改めて調べたことをレポートする（90分）	小レポート
9) 福祉現場における理論の展開（2）高齢者を対象とした機関・福祉施設の概要と業務 【予習】テキストを読んでおく（60分）【復習】理解できたこと・疑問点・改めて調べたことをレポートする（90分）	小レポート
10) 福祉現場における理論の展開（1）福祉現場での多職種・関係機関との連携、心理的支援 【予習】テキストを読んでおく（60分）【復習】理解できたこと・疑問点・改めて調べたことをレポートする（90分）	小レポート
11) 福祉現場における支援の展開（1）福祉現場の実践：活動事例検討 【予習】事例を読み、支援内容を検討する（60分）【復習】理解できたこと・疑問点・改めて検討したことについてレポートする（90分）	小レポート
12) 福祉現場における支援の展開（2）福祉現場の実践：活動事例検討 【予習】事例を読み、支援内容を検討する（60分）【復習】理解できたこと・疑問点・改めて検討したことについてレポートする（90分）	小レポート
13) 福祉現場における支援の展開（3）福祉現場の実践：活動事例検討 【予習】事例を読み、支援内容を検討する（60分）【復習】理解できたこと・改めて検討したことについてレポートする（90分）	小レポート
14) 福祉現場における支援の展開（4）福祉現場の実践：活動事例検討 【予習】事例を読み、支援内容を検討する（60分）【復習】理解できたこと・改めて検討したことについてレポートする（90分）	小レポート
15) 福祉現場における支援の展開 まとめ	小レポート
授業外学習	
事前の予習及び本講で概観した知識、グループワークでの検討結果などを元にして、理解できたことや自身で更に考察した支援についてまとめておいて下さい。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
【テキスト】 開講時に示す。 必要に応じて資料を配布する。	心理学関連科目全般

課題に対するフィードバック

小レポートは、次回授業時にコメントを付けて返す。なお、全員での共有が望ましい内容については、授業の中で取り上げる。

備考

科目名	心理支援に関する理論と実践			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	前期
担当者名	西村 秀明	関連する資格		

授業概要

臨床心理面接は対人援助を行う際に用いられる最も重要な方法である。本講義ではまず、初回面接に必要な人間関係の構築から情報収集の仕方、見立てについて学び、次にロール・プレイを行うことにより、基本的な面接の技法を体験する。これを基礎として、様々な心理療法について学習する。具体的には以下のとおりである。

1) 力動論に基づく心理療法の理論と方法。2) 行動論、認知論に基づく心理療法の理論と方法。3) その他の心理療法各種の理論と方法。4) 心理に関する相談、助言、指導等への各種心理療法の応用。5) クライアントの特性や状況に応じた適切な支援方法の選択、調整。

到達目標

- ・初回面接での注意点、見立て、情報収集の仕方を理解する。
- ・どのような態度、聴き方が相手の話を促し、または妨げるのかを説明できる。
- ・体験過程スケールを学び、クライアントの発言について、内省の度合いを評価できる。
- ・さまざまな心理療法の技法（力動論に基づく心理療法、行動論・認知論に基づく心理療法、その他各種の心理療法）に触れ、それぞれの立場によるアプローチの違いを認識するとともに、それぞれの特性を持ったクライアントにふさわしい援助計画が構築できる。

成績評価方法

定期試験、及び課題に対するシミュレーションでの対応技能により総合的に判断する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							50
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度		○	○		○		20
プレゼンテーション							
グループワーク							30
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 面接技法（ ）～インテーク 【予習】臨床における治療的面接について順次学習していくこと（120分）。 【復習】治療的面接の意味について深化させていくこと（90分）。	
2) 面接技法（ ）～治療面接の構造 【予習】同。【復習】同。	【
3) 面接技法（ ）～技法の意味するもの（1） 【予習】同。【復習】同。	
4) 面接技法（ ）～技法の意味するもの（2） 【予習】同。【復習】同。	
5) 面接技法（ ）～面接における諸問題 【予習】同。【復習】同。	
6) 面接の実際～シミュレーションによる検討（ ） 【予習】模擬面接におけるクライアント役、セラピスト役の設定を打ち合わせておくこと（60分）。【復習】模擬面接で得られた面接構造を深化させる（60分）。	グループワーク
7) 面接の実際～シミュレーションによる検討（ ） 【予習】同。【復習】同。	グループワーク
8) 面接の実際～シミュレーションによる検討（ ） 【予習】同。【復習】同。	グループワーク
9) 面接の実際～シミュレーションによる検討（ ） 【予習】同。【復習】同、及び今後の方針の設定、展開の構築を考える（60分）。	グループワーク
10) 面接の実際～シミュレーションによる検討（ ） 【予習】同。【復習】同。	グループワーク
11) 面接の実際～シミュレーションによる検討（ ） 【予習】同。【復習】同。	グループワーク
12) 面接の実際～シミュレーションによる検討（ ） 【予習】同。【復習】同、並びに各種心理療法の適用を考える（60分）。	グループワーク
13) 面接の実際～シミュレーションによる検討（ ） 【予習】同。【復習】同。	グループワーク
14) 面接の実際～シミュレーションによる検討（ ） 【予習】同。【復習】同。	グループワーク
15) 面接の実際～シミュレーションによる検討（ ） 【予習】同。【復習】同、また中断の意味、終結の契機について考える（60分）。	グループワーク
授業外学習	
種々ある心理面接に関する文献を学習し、各技法について周知しておくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
必要に応じて資料を配布する。	臨床心理学特論 ・ 、保健医療分野に関する理論と支援の展開、心の健康教育に関する理論と実践

課題に対するフィードバック

講義したうえで、実際にシミュレーションを通して検討する。

備考

科目名	臨床心理面接特論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	後期
担当者名	高田 晃	関連する資格		

授業概要

臨床心理学の領域では、さまざまな理論や学派が存在する。対人援助としての臨床心理面接では、理論的背景やその理論に基づき面接の技法も大きく異なる。その中でも各学派に何らかの影響を及ぼしたと思われる精神分析について、実際の面接場面でのやり取りを想定し、その用語や理論について学び理解を深める。事前配布の資料を熟読後練習問題をやって授業に参加し、それを基に議論を深めていく。

到達目標

精神分析的な心理支援について、その理論や専門用語を理解し説明できる。
その理論をもとに、クライアントの内的世界について議論できる。

成績評価方法

毎回の授業内ミニレポート。
全ての授業終了後、テーマを決めたレポートを提出

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート	○	○	○				40
宿題、授業外レポート	○	○	○				30
授業態度・授業参加度			○				30
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 精神分析の定義（精神分析的心理療法とは） 次回授業の単元を熟読し、練習問題をやっておく。授業でとり上げられる専門用語を事前に調べ理解しておく。ディスカッションのため自分の意見をまとめておく。	ミニレポート、プレゼンテーション、ディスカッション
2) 診断面接 次回授業の単元を熟読し、練習問題をやっておく。授業でとり上げられる専門用語を事前に調べ理解しておく。ディスカッションのため自分の意見をまとめておく。	実習、プレゼンテーション、ディスカッション
3) 教育分析（治療者自身の思考の歪み） 次回授業の単元を熟読し、練習問題をやっておく。授業でとり上げられる専門用語を事前に調べ理解しておく。ディスカッションのため自分の意見をまとめておく。	実習、プレゼンテーション、ディスカッション
4) 治療契約 次回授業の単元を熟読し、練習問題をやっておく。授業でとり上げられる専門用語を事前に調べ理解しておく。ディスカッションのため自分の意見をまとめておく。	実習、プレゼンテーション、ディスカッション
5) 治療同盟 次回授業の単元を熟読し、練習問題をやっておく。授業でとり上げられる専門用語を事前に調べ理解しておく。ディスカッションのため自分の意見をまとめておく。	ミニレポート、プレゼンテーション、ディスカッション
6) 転移（転移とは、なぜおこるのか） 次回授業の単元を熟読し、練習問題をやっておく。授業でとり上げられる専門用語を事前に調べ理解しておく。ディスカッションのため自分の意見をまとめておく。	実習、プレゼンテーション、ディスカッション
7) 転移解釈（どのように扱うのか、解釈の実際） 次回授業の単元を熟読し、練習問題をやっておく。授業でとり上げられる専門用語を事前に調べ理解しておく。ディスカッションのため自分の意見をまとめておく。	実習、プレゼンテーション、ディスカッション
8) 逆転移（逆転移への気づき） 次回授業の単元を熟読し、練習問題をやっておく。授業でとり上げられる専門用語を事前に調べ理解しておく。ディスカッションのため自分の意見をまとめておく。	実習、プレゼンテーション、ディスカッション
9) 夢の理解（無意識への王道） 次回授業の単元を熟読し、練習問題をやっておく。授業でとり上げられる専門用語を事前に調べ理解しておく。ディスカッションのため自分の意見をまとめておく。	実習、プレゼンテーション、ディスカッション
10) 治療抵抗 次回授業の単元を熟読し、練習問題をやっておく。授業でとり上げられる専門用語を事前に調べ理解しておく。ディスカッションのため自分の意見をまとめておく。	実習、プレゼンテーション、ディスカッション
11) 徹底操作 次回授業の単元を熟読し、練習問題をやっておく。授業でとり上げられる専門用語を事前に調べ理解しておく。ディスカッションのため自分の意見をまとめておく。	実習、プレゼンテーション、ディスカッション
12) 徹底操作 次回授業の単元を熟読し、練習問題をやっておく。授業でとり上げられる専門用語を事前に調べ理解しておく。ディスカッションのため自分の意見をまとめておく。	実習、プレゼンテーション、ディスカッション
13) 治療終結 次回授業の単元を熟読し、練習問題をやっておく。授業でとり上げられる専門用語を事前に調べ理解しておく。ディスカッションのため自分の意見をまとめておく。	実習、プレゼンテーション、ディスカッション
14) 治療者の資質 次回授業の単元を熟読し、練習問題をやっておく。授業でとり上げられる専門用語を事前に調べ理解しておく。ディスカッションのため自分の意見をまとめておく。	実習、プレゼンテーション、ディスカッション
15) 総括	実習、プレゼンテーション、ディスカッション
授業外学習	
<p>次回授業の単元を熟読し、練習問題をやっておく。 練習問題の答えを基にディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。 次回授業で取り上げられる専門用語について、事前に調べ理解しておく。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>その都度、次回のプリントを配布する。 参考文献 『精神分析理論と臨床』北山修、2001年、誠信書房 『図説 臨床精神分析学』前田重治、1985年、誠信書房</p>	臨床心理面接特論I

課題に対するフィードバック

授業中の疑問や気づき、及び感想などの小レポートについて、修正や再度の説明が必要な個所について次回の授業で口頭で説明する。

備考

科目名	病院臨床心理学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	前期
担当者名	原田 雅史	関連する資格		

授業概要

病院臨床での心理士の活躍の場は、精神科、総合病院、小児科、周産期医療、終末期医療、移植医療、遺伝カウンセリングなど、どんどん広がってきています。医療保健領域のどこで働いたとしても、自分のやるべきことを主体的に見いだしていけるような、心理士としての基本的な視点を、さまざまな事例を通して、できる限り実践的に学んでいきます。

到達目標

病院臨床における心理士の役割について、他職種との協働の重要性まで含めて、具体的なイメージがもてるようになること。

成績評価方法

意欲、姿勢
試験（最終日に実施）

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	○	○	○	○			50
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○	○			20
授業態度・授業参加度			○		○		20
プレゼンテーション							
グループワーク			○	○	○		10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 病院における心理臨床の広がり / 医療と社会	
2) 発達について（1）	
3) 発達について（2）	
4) 精神疾患（1）	
5) 精神疾患（2） 【復習】講義1?5に関して小レポート作成（60分）	
6) 精神疾患（3） 【予習】講義6?9の配布資料を読み込んでくる（30分）	
7) 臨床の基礎（1）	
8) 臨床の基礎（2）	
9) 臨床の基礎（3）	
10) 精神科の事例を通して心理臨床を考える 【復習】講義6?10に関しての小レポート作成（60分）	
11) 周産期の事例を通して心理臨床を考える 【予習】講義11?14の配布資料を読み込んでくる（120分）	グループワーク
12) 小児科の事例を通して心理臨床を考える	グループワーク
13) H I Vの事例を通して心理臨床を考える	グループワーク
14) 緩和ケアの事例を通して心理臨床を考える	グループワーク
15) 試験	
授業外学習	
事前に配る資料をよく読み込んでくること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
適宜、プリントを配布します。	精神医学特論、心身医学特論、医療倫理

課題に対するフィードバック

小レポートについてはコメントをつけて翌日に返します。

備考

科目名	プレイセラピー演習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	選択	2	1年	前期			
担当者名	酒木 保		関連する資格				
授業概要 遊戯療法は遊びを媒介とした、治療法である。遊びには能動的遊びと受動的遊びがある。この二つの遊びのスタイルを、その都度振り替えながら治療を展開していくのである。ここでは、事例を通してこの二つの遊びのスタイルについて学ぶ。							
到達目標 遊びは実際に体験してみないと、遊びの治療的意味を習得するのは困難である。ここでは遊びの実際から、治療への理解を習得するのを目的とする。			成績評価方法 出席と試験による。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	○						50
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート				○			30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習				○			20

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 遊びについて 【復習】各種文献を読む（30分）	
2) 遊びと治療 【復習】各種文献を読む（30分）	
3) 能動的遊び 1 【復習】各種文献を読む（30分）	
4) 能動的遊び 2 【復習】各種文献を読む（30分）	
5) 受動的遊び 1 【復習】各種文献を読む（30分）	
6) 受動的遊び 2 【復習】各種文献を読む（30分）	
7) 遊びと文化 日本の遊び 【復習】各種文献を読む（30分）	
8) 遊びと文化 中国の遊び 【復習】各種文献を読む（30分）	
9) 集団遊び 1 【復習】各種文献を読む（30分）	
10) 集団遊び 2 【復習】各種文献を読む（30分）	
11) 構成的遊び 1 【復習】各種文献を読む（30分）	
12) 構成的遊び 2 【復習】各種文献を読む（30分）	
13) 事例研究 【復習】各種文献を読む（30分）	
14) 事例研究 【復習】各種文献を読む（30分）	
15) 総括	
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
遊戯療法の研究 日本遊戯療法学会編	

課題に対するフィードバック

備考

科目名	心理的アセスメントに関する理論と実践						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	必修	2	1年	後期			
担当者名	酒木 保		関連する資格				
授業概要 主にテストバッテリーを組んで、実際に心理検査を体験し、その結果の書見をかく。また、その試験に対して、修正し加筆する。実質的、具体的な演習となる。							
到達目標 心理検査を理解し、それらを十分に利用できる能力を養う。また、心理所見がきっちり書けることを目標とする。			成績評価方法 報告書の提出				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート	○	○		○			50
宿題、授業外レポート				○			50
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 心理検査についての一般的理解 【復習】心理検査のレポートを書く（60分）	
2) 質問紙法についての臨床的応用 【復習】心理検査のレポートを書く（60分）	
3) 投映法についての臨床的応用 【復習】心理検査のレポートを書く（60分）	
4) 精神作業検査法についての臨床的応用 【復習】心理検査のレポートを書く（60分）	
5) 検査についての臨床的応用 【復習】心理検査のレポートを書く（60分）	
6) 知能検査についての臨床的応用 【復習】心理検査のレポートを書く（60分）	
7) 事例研究 境界性人格障害について 【復習】心理検査のレポートを書く（60分）	
8) 事例研究 うつ病について 【復習】心理検査のレポートを書く（60分）	
9) 事例研究 気質疾患について 【復習】心理検査のレポートを書く（60分）	
10) 描画法により心理査定 【復習】心理検査のレポートを書く（60分）	
11) 質問紙法と投映法 【復習】心理検査のレポートを書く（60分）	
12) 投映法を描画法 【復習】心理検査のレポートを書く（60分）	
13) 質問紙法と描画法 【復習】心理検査のレポートを書く（60分）	
14) 予備日	
15) 総括	
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
その都度、プリントを用意する。	臨床心理学特論Ⅰ・Ⅱ

課題に対するフィードバック

レポートはコメントを付して返却する。

備考

科目名	臨床心理査定演習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	必修	2	2年	前期			
担当者名	酒木 保		関連する資格				
授業概要 臨床心理査定演習 に引き続き、心理検査の実習を行う。 まず、MMPIについてその原理、実施法、解釈法を学習し、次に投影法としてのロールシャッハ法を学習する。 特に、ロールシャッハ法では、多くの実例について解釈法を実習する。 主として片口・Kloper法で行う。							
到達目標 各心理検査について基本的な実施、解釈が、可能になること			成績評価方法 提示する実例について解釈を課し、その程度によって評価する。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート		○					50
授業態度・授業参加度	○						30
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習	○						20

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 面接法による査定1 【復習】授業内容についてレポートを書く（60分）	
2) 面接法による査定2 【復習】授業内容についてレポートを書く（60分）	
3) 面接法による査定3 【復習】授業内容についてレポートを書く（60分）	
4) MMPI 1を用いた事例 【復習】授業内容についてレポートを書く（60分）	
5) MMPI 2を用いた事例 【復習】授業内容についてレポートを書く（60分）	
6) 乳幼児発達検査を用いた事例 【復習】授業内容についてレポートを書く（60分）	
7) 老人の知能のアセスメント 【復習】授業内容についてレポートを書く（60分）	
8) 心理検査から見た患者 【復習】授業内容についてレポートを書く（60分）	
9) 心理検査から見た患者 【復習】授業内容についてレポートを書く（60分）	
10) 心理検査から見た患者 【復習】授業内容についてレポートを書く（60分）	
11) 心理検査から見た患者 【復習】授業内容についてレポートを書く（60分）	
12) 心理検査から見た患者 【復習】授業内容についてレポートを書く（60分）	
13) 心理検査から見た患者 【復習】授業内容についてレポートを書く（60分）	
14) 心理検査から見た患者 【復習】授業内容についてレポートを書く（60分）	
15) 総括	
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
片口安史；新・心理診断法 金子書房	臨床心理査定演習、投映法特論、投映法演習

課題に対するフィードバック

レポートは添削返却する。

備考

科目名	投映法特論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	前期
担当者名	酒木 保	関連する資格		

授業概要

心理検査の中でも特に習得の困難なロールシャッハ法について学習する。
各テストの実施法、採点法、解釈法を多くの実際例について学習する。
なお、ロールシャッハ法には、種々の立場があるが、ここでは、主として、片口・クロッパー法を用いる。

到達目標

ロールシャッハ法について基本的な実施、解釈が可能になること

成績評価方法

事例を提出し、その採点、解釈を課してその達成程度で評価する。出席も重視する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	○						50
小テスト、授業内レポート		○					20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							30

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション、実施法	
2) 実施法、実習（ロールシャッハ法） 【復習】各人がロ・テストの被験者になり、その記号化を自分なりに行う（60分）	
3) 採点法の基本 【復習】各人がロ・テストの被験者になり、その記号化を自分なりに行う（60分）	
4) 採点法 1 【復習】各人がロ・テストの被験者になり、その記号化を自分なりに行う（60分）	
5) 採点法 2 【復習】各人がロ・テストの被験者になり、その記号化を自分なりに行う（60分）	
6) 解釈法 1 【復習】各人がロ・テストの被験者になり、その記号化を自分なりに行う（60分）	
7) 解釈法 2 【復習】各人がロ・テストの被験者になり、その記号化を自分なりに行う（60分）	
8) 解釈法 3 【復習】各人がロ・テストの被験者になり、その記号化を自分なりに行う（60分）	
9) 実際例 1 【復習】各人がロ・テストの被験者になり、その記号化を自分なりに行う（60分）	
10) 実際例 2 【復習】各人がロ・テストの被験者になり、その記号化を自分なりに行う（60分）	
11) 実際例 3 【復習】各人がロ・テストの被験者になり、その記号化を自分なりに行う（60分）	
12) 実際例 4 【復習】各人がロ・テストの被験者になり、その記号化を自分なりに行う（60分）	
13) 実際例 5 【復習】各人がロ・テストの被験者になり、その記号化を自分なりに行う（60分）	
14) 実際例 6 【復習】各人がロ・テストの被験者になり、その記号化を自分なりに行う（60分）	
15) 総括	
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
小野和雄；ロールシャッハテストその実施、解釈、臨床例 川島書店（教科書） 片口安史；新・心理診断法 金子書房（参考書）	投映法演習、臨床心理査定特論、ほか心理臨床に関する全科目

課題に対するフィードバック

備考

科目名	臨床心理基礎実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	2	1年	通年(前期)
担当者名	高田 晃、木元 卓也	関連する資格		

授業概要

臨床心理基礎実習は、心理臨床を実際に行って行くに当たっての訓練である。従って、電話受付やクライアントへの連絡など、実務も体験する。事例研究に参加したり、後期からは教員の面接の陪席を行いそのケースについてケースカンファレンスで中心的に発表したりして、臨床実践の基礎を体験的に習得する。

到達目標

実践のための基礎的な実務の能力を身に付けることを目的とする。

成績評価方法

用意された課題をこなすことが条件であり、実際に実務を行うことが条件となる。その取り組みの姿勢を見て総合的に評価する。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度			○		○		20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習	○	○	○	○	○		80

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
1) 受付業務の見学1 2) 受付業務の見学2 3) 実際に受付業務を体験する1 4) 実際に受付業務を体験する2 5) 電話受付の見学 6) 電話受付の体験1 7) 電話受付の体験2 8) ケースカンファレンスの司会進行1 9) ケースカンファレンスの司会進行2 10) ケースカンファレンスの司会進行3 11) カンファレンスで発表された内容のまとめ1 12) カンファレンスで発表された内容のまとめ2 13) カンファレンスで発表された内容のまとめ3 14) 教員のおこなうケースの陪席1 15) 教員のおこなうケースの陪席2 16) 教員のおこなうケースの陪席3 17) 陪席ケースの報告1 18) 陪席ケースの報告2 19) 陪席ケースの報告3 20) 外部招待者の事例検討会への出席1 21) 外部招待者の事例検討会への出席2 22) 外部招待者の事例検討会への出席3 23) 陪席事例に対するグループ討議1 24) 陪席事例に対するグループ討議2 25) 陪席事例に対するグループ討議3 26) 事例に対する基本姿勢の習得1 27) 事例に対する基本姿勢の習得2 28) 予備日 29) 予備日 30) 統括	実習 プレゼンテーション ディスカッション
授業外学習	
<p> 々のケースについて、症状、用いられる心理治療について、よく調べて理解したうえで治療場面に臨むことが前提となる。 ケース記録は速やかに行いケース担当教員に提出しSVを受ける。 ケースカンファレンスで発表する際は、事前に資料を作成し担当教員の確認を得て、プレゼンテーションに臨む。 </p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
臨床心理学全集、誠信書房	臨床心理に関連するあらゆる科目、特に 臨床心理面接特論、臨床心理学特論

課題に対するフィードバック

その都度行う

備考

分からなことに疑問に思ったことは直ぐにSVに尋ねる。

科目名	臨床心理基礎実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	2	1年	通年(後期)
担当者名	高田 晃、木元 卓也	関連する資格		

授業概要

臨床心理基礎実習は、心理臨床を実際に行って行くに当たっての訓練である。従って、電話受付やクライアントへの連絡など、実務も体験する。事例研究に参加したり、後期からは教員の面接の陪席を行いそのケースについてケースカンファレンスで中心的に発表したりして、臨床実践の基礎を体験的に習得する。

到達目標

実践のための基礎的な実務の能力を身に付けることを目的とする。

成績評価方法

用意された課題をこなすことが条件であり、実際に実務を行うことが条件となる。その取り組みの姿勢を見て総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度			○		○		20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習	○	○	○	○	○		80

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
1) 受付業務の見学1 2) 受付業務の見学2 3) 実際に受付業務を体験する1 4) 実際に受付業務を体験する2 5) 電話受付の見学 6) 電話受付の体験1 7) 電話受付の体験2 8) ケースカンファレンスの司会進行1 9) ケースカンファレンスの司会進行2 10) ケースカンファレンスの司会進行3 11) カンファレンスで発表された内容のまとめ1 12) カンファレンスで発表された内容のまとめ2 13) カンファレンスで発表された内容のまとめ3 14) 教員のおこなうケースの陪席1 15) 教員のおこなうケースの陪席2 16) 教員のおこなうケースの陪席3 17) 陪席ケースの報告1 18) 陪席ケースの報告2 19) 陪席ケースの報告3 20) 外部招待者の事例検討会への出席1 21) 外部招待者の事例検討会への出席2 22) 外部招待者の事例検討会への出席3 23) 陪席事例に対するグループ討議1 24) 陪席事例に対するグループ討議2 25) 陪席事例に対するグループ討議3 26) 事例に対する基本姿勢の習得1 27) 事例に対する基本姿勢の習得2 28) 予備日 29) 予備日 30) 統括	実習 プレゼンテーション ディスカッション
授業外学習	
<p>個々のケースについて、症状、用いられる心理治療について、よく調べて理解したうえで治療場面に臨むことが前提となる。ケース記録は速やかにいいケース担当教員に提出しSVを受ける。</p> <p>ケースカンファレンスで発表する際は、事前に資料を作成し担当教員の確認を得て、プレゼンテーションに臨む。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
臨床心理学全集、誠信書房	臨床心理に関連するあらゆる科目、特に臨床心理面接特論、臨床心理学特論

課題に対するフィードバック

その都度行う

備考

分からなことに疑問に思ったことは直ぐにSVに尋ねる。

科目名	心理実践実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	0	1年	通年(前期)
担当者名	西村 秀明、小山 典子、榎本 俊哉、木元 卓也	関連する資格		

授業概要

「心理実践実習」(180時間以上)は、本学附属の臨床心理相談センター等において心理臨床に係る対応を図った事例について教員とともにM1・M2全体で検討及びスーパーヴィジョン等を実施し、心理援助の方法を多角的に学修する。

到達目標

「心理実践実習」における到達目標は次のとおり、1)コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能の修得、2)心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能、3)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得、4)公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解、となっており、事例の検討やスーパーヴィジョンを通して当目標の到達を目指し学修する。

成績評価方法

ケース検討の視点、及びスーパーヴィジョンに対する理解度等を通して総合的に評価する。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート		○		○			10
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション		○	○	○	○		30
グループワーク							
演習							
実習		○	○	○	○		50

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>1)～30) 本学附属の臨床心理相談センター等に対応を図った事例について教員とともにM1・M2全体で検討を加え、心理援助の方法を多角的に学修する。なかでも、1)コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能について、2)心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能について、3)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携などについて、4)公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解について、重点的に検証していく。【予習】対応を図った事例について、主訴、ニーズ、家族歴、生活史、面接等の経過をまとめ、今後の方針等について端的に整理すること。【復習】カンファレンスにおいて提出された意見を集約し、今後の対応に反映させること。</p>	<p>各自が対応した心理臨床事例のスーパーヴィジョンを中心にしたグループワークの実施。左記視点に則って事例の支援計画が構築できているかどうか、検討を加える。</p>
授業外学習	
<p>心理臨床に関わる諸技能を学習するとともに、実際に事例援助の過程で修得した支援の視点を身につけて臨むこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストなし。 参考図書は、適時紹介する。</p>	<p>心理臨床に関わるすべての科目。</p>

課題に対するフィードバック

適宜指導教員のスーパービジョンを受けるとともに、ケースカンファレンスにおいて検討された事例の経過を報告すること。

備考

科目名	心理実践実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	0	1年	通年(後期)
担当者名	西村 秀明、小山 典子、榎本 俊哉、木元 卓也	関連する資格		

授業概要

「心理実践実習」(180時間以上)は、本学附属の臨床心理相談センター等において心理臨床に係る対応を図った事例について教員とともにM1・M2全体で検討及びスーパーヴィジョン等を実施し、心理援助の方法を多角的に学修する。

到達目標

「心理実践実習」における到達目標は次のとおり、1)コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能の修得、2)心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能、3)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得、4)公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解、となっており、事例の検討やスーパーヴィジョンを通して当目標の到達を目指し学修する。

成績評価方法

ケース検討の視点、及びスーパーヴィジョンに対する理解度等を通して総合的に評価する。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート		○		○			10
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション		○	○	○	○		30
グループワーク							
演習							
実習		○	○	○	○		50

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>1)～30) 本学附属の臨床心理相談センター等で対応を図った事例について教員とともにM1・M2全体で検討を加え、心理援助の方法を多角的に学修する。なかでも、1)コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能について、2)心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能について、3)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携などについて、4)公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解について、重点的に検証していく。【予習】対応を図った事例について、主訴、ニーズ、家族歴、生活史、面接等の経過をまとめ、今後の方針等について端的に整理すること。【復習】カンファレンスにおいて提出された意見を集約し、今後の対応に反映させること。</p>	<p>各自が対応した心理臨床事例のスーパーヴィジョンを中心にしたグループワークの実施。左記視点に則って事例の支援計画が構築できているかどうか、検討を加える。</p>
授業外学習	
<p>心理臨床に関わる諸技能を学習するとともに、実際に事例援助の過程で修得した支援の視点を身につけて臨むこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストなし。 参考図書は、適時紹介する。</p>	<p>心理臨床に関わるすべての科目。</p>

課題に対するフィードバック

適宜指導教員のスーパービジョンを受けるとともに、ケースカンファレンスにおいて検討された事例の経過を報告すること。

備考

科目名	心理実践実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	4	2年	通年(前期)
担当者名	西村 秀明、小山 典子、榎本 俊哉、木元 卓也	関連する資格		

授業概要

「心理実践実習」(180時間以上)は、本学附属の臨床心理相談センター等において心理臨床に係る対応を図った事例について教員とともにM1・M2全体で検討及びスーパーヴィジョン等を実施し、心理援助の方法を多角的に学修する。

到達目標

「心理実践実習」における到達目標は次のとおり、1)コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能の修得、2)心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能、3)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得、4)公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解、となっており、事例の検討やスーパーヴィジョンを通して当目標の到達を目指し学修する。

成績評価方法

ケース検討の視点、及びスーパーヴィジョンに対する理解度等を通して総合的に評価する。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート		○		○			10
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション		○	○	○	○		30
グループワーク							
演習							
実習		○	○	○	○		50

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>1)～30) 本学附属の臨床心理相談センター等で対応を図った事例について教員とともにM1・M2全体で検討を加え、心理援助の方法を多角的に学修する。なかでも、1)コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能について、2)心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能について、3)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携などについて、4)公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解について、重点的に検証していく。【予習】対応を図った事例について、主訴、ニーズ、家族歴、生活史、面接等の経過をまとめ、今後の方針等について端的に整理すること。【復習】カンファレンスにおいて提出された意見を集約し、今後の対応に反映させること。</p>	<p>各自が対応した心理臨床事例のスーパーヴィジョンを中心にしたグループワークの実施。左記視点に則って事例の支援計画が構築できているかどうか、検討を加える。</p>
授業外学習	
<p>心理臨床に関わる諸技能を学習するとともに、実際に事例援助の過程で修得した支援の視点を身につけて臨むこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストなし。 参考図書は、適時紹介する。</p>	<p>心理臨床に関わるすべての科目。</p>

課題に対するフィードバック

適宜指導教員のスーパービジョンを受けるとともに、ケースカンファレンスにおいて検討された事例の経過を報告すること。

備考

科目名	心理実践実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	4	2年	通年(後期)
担当者名	西村 秀明、小山 典子、榎本 俊哉、木元 卓也	関連する資格		

授業概要

「心理実践実習」(180時間以上)は、本学附属の臨床心理相談センター等において心理臨床に係る対応を図った事例について教員とともにM1・M2全体で検討及びスーパーヴィジョン等を実施し、心理援助の方法を多角的に学修する。

到達目標

「心理実践実習」における到達目標は次のとおり、1)コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能の修得、2)心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能、3)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得、4)公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解、となっており、事例の検討やスーパーヴィジョンを通して当目標の到達を目指し学修する。

成績評価方法

ケース検討の視点、及びスーパーヴィジョンに対する理解度等を通して総合的に評価する。

評価項目	評価基準						評価割合(%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート		○		○			10
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション		○	○	○	○		30
グループワーク							
演習							
実習		○	○	○	○		50

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>1)～30) 本学附属の臨床心理相談センター等に対応を図った事例について教員とともにM1・M2全体で検討を加え、心理援助の方法を多角的に学修する。なかでも、1)コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能について、2)心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能について、3)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携などについて、4)公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解について、重点的に検証していく。【予習】対応を図った事例について、主訴、ニーズ、家族歴、生活史、面接等の経過をまとめ、今後の方針等について端的に整理すること。【復習】カンファレンスにおいて提出された意見を集約し、今後の対応に反映させること。</p>	<p>各自が対応した心理臨床事例のスーパーヴィジョンを中心にしたグループワークの実施。左記視点に則って事例の支援計画が構築できているかどうか、検討を加える。</p>
授業外学習	
<p>心理臨床に関わる諸技能を学習するとともに、実際に事例援助の過程で修得した支援の視点を身につけて臨むこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストなし。 参考図書は、適時紹介する。</p>	<p>心理臨床に関わるすべての科目。</p>

課題に対するフィードバック

適宜指導教員のスーパービジョンを受けるとともに、ケースカンファレンスにおいて検討された事例の経過を報告すること。

備考

科目名	心理実践実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	0	1年	後期
担当者名	西村 秀明、高田 晃、酒木 保、小 山 典子、榎本 俊哉、木元 卓也	関連する資格		

授業概要

本学附属臨床心理相談センター等において、180時間以上、指導教員の陪席を含め実際に事例を継続担当していく。具体的には、1年後期、2年通年の18ヶ月（約60週）において、平均2週間に1回（約30週）の面接を3名以上担当することにより、教員等による事前事後指導を含め1事例2時間と換算して180時間以上を確保する（いずれにしても心理面接等を計90セッション以上実施することとなる）。

到達目標

- ・「心理実践実習」における到達目標は次のとおり、1) コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能の修得、2) 心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能、3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得、4) 公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解、となっており、心理臨床の実務に従事するなかで当目標の到達を目指し学修する。
- ・心理臨床において必要な資質・能力・技術を習得する。
- ・心理臨床の専門家としてのアイデンティティを確立する。

成績評価方法

心理臨床の実務において、クライアント理解や援助に対する視点が適切であるかどうか、心理療法に関する理論がクライアントの主訴やニーズに添った確な対応として機能しているかどうか、また援助の組み立てにおいてチームアプローチ、あるいは他機関との連携等が視野に入れられたものとして構築できているかどうか、などを勘案し評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート		○	○	○			10
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション		○	○	○	○		30
グループワーク							
演習							
実習		○	○	○	○		50

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>・「心理実践実習」における到達目標は次のとおり、1)コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能の修得、2)心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能、3)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得、4)公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解、となっており、心理臨床の実務に従事するなかで当目標の到達を目指し学修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理臨床において必要な資質・能力・技術を習得する。 ・心理臨床の専門家としてのアイデンティティを確立する。 <p>【予習】心理臨床にかかわる姿勢、人間関係性、各技法等について充分学習しておくこと。【復習】担当した事例、あるいはスーパーヴィジョンの内容を振り返り、理解を深めること。</p>	<p>心理臨床の実務において、クライアント理解や援助に対する視点が適切であるかどうか、心理療法に関する理論がクライアントの主訴やニーズに添った的確な対応として機能しているかどうか、また援助の組み立てにおいてチームアプローチ、あるいは他機関との連携等が視野に入れられたものとして構築できているかどうか、などを勘案し評価する。</p>
授業外学習	
<p>心理臨床にかかわるあらゆる理論、技法などについて、常に並行して学習していくこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストなし。 参考図書は、適時紹介する。</p>	<p>心理臨床に関わるすべての科目。</p>

課題に対するフィードバック

心理面接やプレイセラピー、あるいは心理検査等において指導教員より直接スーパーヴィジョンを受けることにより、クライアント理解及び対応支援技術の習得を図る。

備考

科目名	心理実践実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	4	2年	通年(前期)
担当者名	西村 秀明、高田 晃、酒木 保、小 山 典子、榎本 俊哉、木元 卓也	関連する資格		

授業概要

本学附属臨床心理相談センター等において、180時間以上、指導教員の陪席を含め実際に事例を継続担当していく。具体的には、1年後期、2年通年の18ヶ月（約60週）において、平均2週間に1回（約30週）の面接を3名以上担当することにより、教員等による事前事後指導を含め1事例2時間と換算して180時間以上を確保する（いずれにしても心理面接等を計90セッション以上実施することとなる）。

到達目標

・「心理実践実習」における到達目標は次のとおり、1) コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能の修得、2) 心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能、3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得、4) 公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解、となっており、心理臨床の実務に従事するなかで当目標の到達を目指し学修する。

- ・心理臨床において必要な資質・能力・技術を習得する。
- ・心理臨床の専門家としてのアイデンティティを確立する。

成績評価方法

心理臨床の実務において、クライアント理解や援助に対する視点が適切であるかどうか、心理療法に関する理論がクライアントの主訴やニーズに添った確な対応として機能しているかどうか、また援助の組み立てにおいてチームアプローチ、あるいは他機関との連携等が視野に入れられたものとして構築できているかどうか、などを勘案し評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート		○	○	○			10
授業態度・授業参加度			○		○		20
プレゼンテーション		○	○	○	○		30
グループワーク							
演習							
実習		○	○	○	○		50

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)(実習)	アクティブラーニング
<p>・「心理実践実習」における到達目標は次のとおり、1)コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能の修得、2)心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能、3)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得、4)公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解、となっており、心理臨床の実務に従事するなかで当目標の到達を目指し学修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理臨床において必要な資質・能力・技術を習得する。 ・心理臨床の専門家としてのアイデンティティを確立する。 <p>【予習】心理臨床にかかわる姿勢、人間関係性、各技法等について充分学習しておくこと。【復習】担当した事例、あるいはスーパーヴィジョンの内容を振り返り、理解を深めること。</p>	<p>心理臨床の実務において、クライアント理解や援助に対する視点が適切であるかどうか、心理療法に関する理論がクライアントの主訴やニーズに添った的確な対応として機能しているかどうか、また援助の組み立てにおいてチームアプローチ、あるいは他機関との連携等が視野に入れられたものとして構築できているかどうか、などを勘案し評価する。</p>
授業外学習	
<p>心理臨床にかかわるあらゆる理論、技法などについて、常に並行して学習していくこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストなし。 参考図書は、適時紹介する。</p>	<p>心理臨床に関わるすべての科目。</p>

課題に対するフィードバック

心理面接やプレイセラピー、あるいは心理検査等において指導教員より直接スーパーヴィジョンを受けることにより、クライアント理解及び対応支援技術の習得を図る。

備考

科目名	心理実践実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	4	2年	通年(後期)
担当者名	西村 秀明、高田 晃、酒木 保、小 山 典子、榎本 俊哉、木元 卓也	関連する資格		

授業概要

本学附属臨床心理相談センター等において、180時間以上、指導教員の陪席を含め実際に事例を継続担当していく。具体的には、1年後期、2年通年の18ヶ月（約60週）において、平均2週間に1回（約30週）の面接を3名以上担当することにより、教員等による事前事後指導を含め1事例2時間と換算して180時間以上を確保する（いずれにしても心理面接等を計90セッション以上実施することとなる）。

到達目標

・「心理実践実習」における到達目標は次のとおり、1) コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能の修得、2) 心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能、3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得、4) 公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解、となっており、心理臨床の実務に従事するなかで当目標の到達を目指し学修する。

- ・心理臨床において必要な資質・能力・技術を習得する。
- ・心理臨床の専門家としてのアイデンティティを確立する。

成績評価方法

心理臨床の実務において、クライアント理解や援助に対する視点が適切であるかどうか、心理療法に関する理論がクライアントの主訴やニーズに添った確な対応として機能しているかどうか、また援助の組み立てにおいてチームアプローチ、あるいは他機関との連携等が視野に入れられたものとして構築できているかどうか、などを勘案し評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート		○	○	○			10
授業態度・授業参加度			○		○		20
プレゼンテーション		○	○	○	○		30
グループワーク							
演習							
実習		○	○	○	○		50

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)(実習)	アクティブラーニング
<p>・「心理実践実習」における到達目標は次のとおり、1)コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能の修得、2)心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能、3)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得、4)公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解、となっており、心理臨床の実務に従事するなかで当目標の到達を目指し学修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理臨床において必要な資質・能力・技術を習得する。 ・心理臨床の専門家としてのアイデンティティを確立する。 <p>【予習】心理臨床にかかわる姿勢、人間関係性、各技法等について充分学習しておくこと。【復習】担当した事例、あるいはスーパーヴィジョンの内容を振り返り、理解を深めること。</p>	<p>心理臨床の実務において、クライアント理解や援助に対する視点が適切であるかどうか、心理療法に関する理論がクライアントの主訴やニーズに添った的確な対応として機能しているかどうか、また援助の組み立てにおいてチームアプローチ、あるいは他機関との連携等が視野に入れられたものとして構築できているかどうか、などを勘案し評価する。</p>
授業外学習	
<p>心理臨床にかかわるあらゆる理論、技法などについて、常に並行して学習していくこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストなし。 参考図書は、適時紹介する。</p>	<p>心理臨床に関わるすべての科目。</p>

課題に対するフィードバック

心理面接やプレイセラピー、あるいは心理検査等において指導教員より直接スーパーヴィジョンを受けることにより、クライアント理解及び対応支援技術の習得を図る。

備考

科目名	心理実践実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	2	2年	通年(前期)
担当者名	西村 秀明、小山 典子、榎本 俊哉、木元 卓也	関連する資格		

授業概要

公認心理師法により定められている、次の4項目を中心に修得する。

- 1) コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能の修得。
- 2) 心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能。
- 3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得。
- 4) 公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解。

また、各自個別的な実習目標を設定し、心理臨床における専門家としてのIdentity確立に向けて学修する。

次に、本学と実習契約をしている各実習機関(施設)への配属実習により、心理業務の実際について学修する。実習は3領域以上の機関で実施する。また、実習中は週1回以上、実習担当教員が実習機関(施設)を訪問し、実習指導職員とともにスーパーヴィジョンを実施する。

全実習期間及び時間は、12日間、96時間とする。なお、実習機関の各領域は以下のとおり。

医療保健分野 5日間(40時間) 福祉分野 5日間(40時間) 教育分野 2日間(16時間)

司法・犯罪分野を選択する者は、美祿社会復帰促進センターにおいて2日間(16時間)の見学実習とする。

の医療保健分野、及び の福祉分野の実習は必修とし、 の教育分野、及び の司法・犯罪分野における実習はいずれかを選択するものとする。

実習に際しては、毎日「実習記録」を記載すること。また、「実習記録」に基づいて実習指導者よりスーパーヴァイズを受けるものとする。実習終了後は、実習における実践記録をケースレポート、あるいは研究レポートとしてまとめて提出する。ケースレポート、研究レポート等により実習担当教員による個別指導を実施する。その後、提出されたケースレポート、あるいは研究レポートは「実習・研究報告会」においてさらに検討を加えるものとし、実習の反省と総括を行う。

到達目標

「心理実践実習」における到達目標は次のとおり、1) コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能の修得、2) 心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能、3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得、4) 公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解、となっており、実務実習を通して当目標の到達を目指し学修する。

成績評価方法

実習評価、研究レポート、「研究報告会」における学修報告等で総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート		○	○	○			20
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション		○	○	○	○		20
グループワーク							
演習							
実習		○	○	○	○		50

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>1．公認心理師法により定められている、次の4項目を中心に修得する。</p> <p>1) コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能の修得。</p> <p>2) 心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能。</p> <p>3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得。</p> <p>4) 公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解。</p> <p>2．各自個別的な実習課題を設定し、実習機関（施設）においてどのようなことを目的に実習に臨むか、自己課題についてレポートする。</p> <p>3．次に、本学と実習契約をしている各実習機関（施設）への配属実習により、心理業務の実際について学修する。配属先は、実習担当教員と協議したうえでそれぞれの領域の中で適切な機関（施設）を選定する。実習は3領域以上の機関（施設）で実施する。</p> <p>4．実習中は、毎日「実習記録」を記載する。また、「実習記録」に基づいて実習指導者よりスーパーヴァイズを受ける。</p> <p>5．また、実習中は週1回以上、実習担当教員が実習機関（施設）を訪問し、実習指導職員とともにスーパーヴィジョンを実施する。</p> <p>6．実習終了後は、実習における実践記録をケースレポート、あるいは研究レポートとしてまとめて提出する。ケースレポート、研究レポート等により実習担当教員による個別指導を実施する。その後、提出されたケースレポート、あるいは研究レポートは「実習・研究報告会」においてさらに検討を加えるものとし、実習の反省と総括を行う。</p> <p>【予習】医療機関、福祉施設等、実習先の治療、援助支援等、各機能について充分学習しておくこと。【復習】実習を振り返り自己吟味を深めるとともに、得た指導から心理臨床の実践における対応技能について理解の幅を拡げること。</p>	
授業外学習	
<p>これまで学修した心理臨床に関わる諸技能を身につけ、それぞれの実習先施設の機能を充分認識したうえで、自らの実習課題、視点を設定して臨むこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストなし。 適宜プリントを配布する。また、実習記録票、実習への心構え・要領などを配布する。 参考図書は、適時紹介する。</p>	<p>心理臨床に関わるすべての科目。</p>

課題に対するフィードバック

実習中、及び実習終了後に「実習記録」他、実習先での指導内容を含め、指導教員によりスーパーヴィジョンを行う。

備考

科目名	心理実践実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	2	2年	通年(後期)
担当者名	西村 秀明、小山 典子、榎本 俊哉、木元 卓也	関連する資格		

授業概要

公認心理師法により定められている、次の4項目を中心に修得する。

- 1) コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能の修得。
- 2) 心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能。
- 3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得。
- 4) 公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解。

また、各自個別的な実習目標を設定し、心理臨床における専門家としてのIdentity確立に向けて学修する。

次に、本学と実習契約をしている各実習機関(施設)への配属実習により、心理業務の実際について学修する。実習は3領域以上の機関で実施する。また、実習中は週1回以上、実習担当教員が実習機関(施設)を訪問し、実習指導職員とともにスーパーヴィジョンを実施する。

全実習期間及び時間は、12日間、96時間とする。なお、実習機関の各領域は以下のとおり。

医療保健分野 5日間(40時間) 福祉分野 5日間(40時間) 教育分野 2日間(16時間)

司法・犯罪分野を選択する者は、美祿社会復帰促進センターにおいて2日間(16時間)の見学実習とする。

の医療保健分野、及び の福祉分野の実習は必修とし、 の教育分野、及び の司法・犯罪分野における実習はいずれかを選択するものとする。

実習に際しては、毎日「実習記録」を記載すること。また、「実習記録」に基づいて実習指導者よりスーパーヴァイズを受けるものとする。実習終了後は、実習における実践記録をケースレポート、あるいは研究レポートとしてまとめて提出する。ケースレポート、研究レポート等により実習担当教員による個別指導を実施する。その後、提出されたケースレポート、あるいは研究レポートは「実習・研究報告会」においてさらに検討を加えるものとし、実習の反省と総括を行う。

到達目標

「心理実践実習」における到達目標は次のとおり、1) コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能の修得、2) 心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能、3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得、4) 公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解、となっており、実務実習を通して当目標の到達を目指し学修する。

成績評価方法

実習評価、研究レポート、「研究報告会」における学修報告等で総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート		○	○	○			20
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション		○	○	○	○		20
グループワーク							
演習							
実習		○	○	○	○		50

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>1．公認心理師法により定められている、次の4項目を中心に修得する。</p> <p>1) コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能の修得。</p> <p>2) 心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能。</p> <p>3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得。</p> <p>4) 公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解。</p> <p>2．各自個別的な実習課題を設定し、実習機関（施設）においてどのようなことを目的に実習に臨むか、自己課題についてレポートする。</p> <p>3．次に、本学と実習契約をしている各実習機関（施設）への配属実習により、心理業務の実際について学修する。配属先は、実習担当教員と協議したうえでそれぞれの領域の中で適切な機関（施設）を選定する。実習は3領域以上の機関（施設）で実施する。</p> <p>4．実習中は、毎日「実習記録」を記載する。また、「実習記録」に基づいて実習指導者よりスーパーヴァイズを受ける。</p> <p>5．また、実習中は週1回以上、実習担当教員が実習機関（施設）を訪問し、実習指導職員とともにスーパーヴィジョンを実施する。</p> <p>6．実習終了後は、実習における実践記録をケースレポート、あるいは研究レポートとしてまとめて提出する。ケースレポート、研究レポート等により実習担当教員による個別指導を実施する。その後、提出されたケースレポート、あるいは研究レポートは「実習・研究報告会」においてさらに検討を加えるものとし、実習の反省と総括を行う。</p> <p>【予習】医療機関、福祉施設等、実習先の治療、援助支援等、各機能について充分学習しておくこと。【復習】実習を振り返り自己吟味を深めるとともに、得た指導から心理臨床の実践における対応技能について理解の幅を拡げること。</p>	
授業外学習	
<p>これまで学修した心理臨床に関わる諸技能を身につけ、それぞれの実習先施設の機能を充分認識したうえで、自らの実習課題、視点を設定して臨むこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストなし。 適宜プリントを配布する。また、実習記録票、実習への心構え・要領などを配布する。 参考図書は、適時紹介する。</p>	<p>心理臨床に関わるすべての科目。</p>

課題に対するフィードバック

実習中、及び実習終了後に「実習記録」他、実習先での指導内容を含め、指導教員によりスーパーヴィジョンを行う。

備考

科目名	臨床心理実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	1	2年	前期
担当者名	西村 秀明、榎本 俊哉	関連する資格		

授業概要

附属臨床心理相談センター等において心理臨床の実務に従事し、担当したクライアントの心理援助に関わる業務検証について、個別スーパービジョン及び集団（小グループによる）スーパービジョンを実施し、クライアント理解や面接・心理療法アプローチについて多角的に検討を加えていくことによって、心理臨床家としての専門性を深化させる。

到達目標

- ・心理臨床において必要な資質・能力・技術を習得することはもとより、クライアントに対し視野を広げた俯瞰的立場から支援の構築が出来るようになる。
- ・臨床心理士としてのアイデンティティを確立する。

成績評価方法

レポート、クライアントの理解度、援助の視点、面接の組み立て、総合的なクライアント評価など、心理臨床に携わる専門家としての技能や感性をもって対応できているかどうか、また多角的な視点で捉えて援助の構築が出来ているかどうかなどで評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート		○	○	○			20
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション		○	○	○	○		20
グループワーク							
演習							
実習		○	○	○	○		50

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>1)～15)自ら担当した心理臨床事例をレポートし、個人・集団（小グループ）スーパーヴィジョンを実施する。</p>	<p>心理臨床事例のスーパーヴィジョンを中心にしたグループワークの実施。自らの問題点を抽出し、心理臨床の実務家としての資質の向上を図るための検討を加える。</p>
<p>授業外学習</p>	
<p>附属臨床心理相談センター等で従事した心理臨床の実践におけるケースレポートを、面接あるいはプレイセラピーの構造、視点、方針、セラピスト自身の位置などについて常にまとめておくこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストなし。 参考図書は、適時紹介する。</p>	<p>心理臨床に関わるすべての科目。</p>

課題に対するフィードバック

心理臨床におけるセラピストとしてのアイデンティティ確立を視野に入れてスーパーヴィジョンを実施する。

備考

科目名	患者論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	後期
担当者名	西村 秀明	関連する資格		

授業概要

人間は誕生から死までその生涯の中で、常に他人の介助が必要となる可能性を有している。人類のスタートより、介助する者とされる者の関係があったと考えられる。現代社会の下での患者とは何か、治療者とは何かを問う。また、社会的自己としての危機と症状化との関連についてその心理機序を検討するとともに、自己回復に至る過程を患者自身の体験を通して明らかにし、治療者としての位置を明確にすべく患者から学ぶ。

到達目標

- ・治療者 患者関係において、治療者としての位置を知る。
- ・治療者 患者関係における、患者側の心性を理解する。

成績評価方法

定期試験、及びレポートなどで総合評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート	○	○		○			20
宿題、授業外レポート	○	○		○			50
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク	○	○	○		○		20
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 精神疾患と法律 取り締まりの対象とされる患者【予習】精神保健福祉法について学習しておくこと（120分）。【復習】法と人権について深化させる（60分）。	
2) 患者からみた精神科医療、及び偏見・差別【予習】精神科医療の歴史について調べておくこと（120分）。【復習】患者の声から精神科医療について振り返る（60分）。	小レポート
3) 現代社会とストレス・うつ、及びその対応に対峙する社会的価値観【予習】ストレス全般について学習しておくこと（90分）。【復習】社会的構造の変遷とストレスとの関連を確認する（60分）。	
4) 呪縛の構造：教育の歴史と反発達論【予習】発達概念について調べておくこと（90分）。【復習】社会的構造の変化が発達に何を求めたか確認する（60分）。	
5) 不登校理解の変遷と精神神経学会における批判【予習】不登校現象の変遷を統計的に調べておくこと（90分）。【復習】精神科領域における不登校理解の変遷を確認する（90分）。	
6) ひきこもり理解の変遷、及び「不登校」「ひきこもり」に映る現代社会【予習】ひきこもりの定義について調べておくこと（90分）。【復習】不登校・ひきこもり理解の変遷を社会的構造から捉え直してみる（90分）。	小レポート
7) 被害者学を通してみた患者・遺族の心理【予習】PTSDについて学習しておくこと（90分）。【復習】心的外傷とその対応について習得する（60分）。	
8) 統合失調症の理解と臨床心理的地域援助【予習】障害者自立支援法について学習しておくこと（120分）。【復習】地域支援活動の現状について認識を深める（60分）。	
9) アルコール依存症の臨床 初めに人酒を呑み、次に酒酒を呑み、後に酒人を呑む【予習】嗜癪の臨床について学習しておくこと（90分）。【復習】嗜癪に対する地域支援の現状を理解すること（60分）。	小テスト
10) 高齢者の精神科心理臨床 認知症に見える世界【予習】高齢者心理について学習しておくこと（90分）。【復習】高齢者の地域支援について理解を深める（90分）。	小テスト
11) 当事者との対話：統合失調症【予習】統合失調症の生活様態について調べておくこと（90分）。【復習】実態から支援について理解を深める（60分）。	グループワーク（対談）/レポート
12) 当事者との対話：統合失調症【予習】同。【復習】同。	グループワーク（対談）/レポート
13) 当事者との対話：アルコール依存症【予習】アルコール依存症の生活様態について調べておくこと（90分）。【復習】実態から支援について理解を深める（60分）。	グループワーク（対談）/レポート
14) 当事者との対話：アルコール依存症【予習】同。【復習】同。	グループワーク（対談）/レポート
15) 総括：心の病と社会的構造との関連について【予習】これまでの講義を振り返る（120分）。【復習】心の病が社会病理としてどのように理解されるか深化させる（90分）。	グループワーク（対談）/レポート
授業外学習	
『人間の不適応を社会病理学的に捉え直すとはどのような様相で見えてくるか』というテーマであり、社会学系の文献での学習を怠らないこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストなし。 参考図書は、適時紹介する。	臨床心理学特論 ・ 保健医療分野に関する理論と支援の展開

課題に対するフィードバック

レポートに対し、コメントを記してフィードバックする。

備考

科目名	認知心理学特論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	後期
担当者名	酒木 保	関連する資格		

授業概要

この講義では、行動療法の基礎概念を理解し、認知療法を理解する。さらに、この両者を統合化して、認知行動療法が確立された過程を説明する。また、事例を通して認知行動療法の実際を学び、臨床に活用できるように技術習得を目指す。

到達目標

認知行動療法を理解する。
実際に認知行動療法を体験する。

成績評価方法

授業態度、授業の出席率、授業内レポートなどによる。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	○			○			70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習				○			30

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 全体のガイダンス	
2) 認知について学ぶ	
3) メタ認知について学ぶ	
4) 学習の基礎理論	
5) 行動と学習	
6) 認知と行動	
7) 行動と認知	
8) 認知が変わると行動が変わることの原理	
9) 行動が変わると認知が変わることの原理	
10) 認知行動療法の実際 1	
11) 認知行動療法の実際 2	
12) プログラムを組み立てる 1	
13) プログラムを組み立てる 2	
14) 組み立てたプログラムの適用 1	
15) 組み立てたプログラムの適用 2	
授業外学習	
全日程を通して、感覚、知覚、認知の基礎を予習する。また、神経過程についても学ぶ。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
必要に応じて、参考書を紹介する。	行動療法、臨床心理基礎実習

課題に対するフィードバック

備考

科目名	特別研究(修士論文を含む)			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	4	1年	通年(前期)
担当者名	高田 晃、酒木 保、西村 秀明、三島 瑞穂、小山 典子、榎本 俊哉	関連する資格		

授業概要

この特別研究は修士論文として完成させていくものであり、各自研究課題を主査、副査の教員とよく検討して決め、研究計画を立て、緻密に進めていく。その過程の中で、主査、副査に随時指導を受け、発表し、よりよい論文に仕上げていくことをねらいとする。

到達目標

研究課題について研究計画を立てる。
研究計画に従って修士論文として完成する。

成績評価方法

論文作成過程、発表の内容、口頭試問における内容、論文の内容等を総合的に判断する。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習	○	○	○	○	○	○	100
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 主査、副査を決定し、その指導の下に興味関心のある研究テーマに沿って先行研究論文の収集を行い読み込む。研究テーマを絞り込み研究デザインのアウトラインを作成する。	担当教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
2)	
3)	
4)	
5)	
6)	
7)	
8)	
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
指導教員の指摘を理解し、よく調べること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
自分の研究テーマに関連する論文や文献	

課題に対するフィードバック

その都度行う

備考

科目名	特別研究(修士論文を含む)			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	4	1年	通年(後期)
担当者名	高田 晃、酒木 保、西村 秀明、三島 瑞穂、小山 典子、榎本 俊哉	関連する資格		

授業概要

この特別研究は修士論文として完成させていくものであり、各自研究課題を主査、副査の教員とよく検討して決め、研究計画を立て、緻密に進めていく。その過程の中で、主査、副査に随時指導を受け、発表し、よりよい論文に仕上げていくことをねらいとする。

到達目標

研究課題について研究計画を立てる。
研究計画に従って修士論文として完成する。

成績評価方法

論文作成過程、発表の内容、口頭試問における内容、論文の内容等を総合的に判断する。

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)								
小テスト、授業内レポート								
宿題、授業外レポート								
授業態度・授業参加度								
プレゼンテーション								
グループワーク								
演習	○	○	○	○	○	○	100	
実習								

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 前期に主査、副査の指導の下に立てた研究デザインに従って先行研究や自ら調査等を実施して情報収集などに努め、それを基に主査、副査の指導を仰ぎながら、3月31日までに修士論文の仮題目を提出し、研究の方向性を決定する。	担当教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
2)	
3)	
4)	
5)	
6)	
7)	
8)	
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
指導教員の指摘を理解し、よく調べること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
自分の研究テーマに関連する論文や文献	

課題に対するフィードバック

その都度行う

備考

科目名	特別研究(修士論文を含む)			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	4	2年	通年(前期)
担当者名	高田 晃、酒木 保、西村 秀明、三島 瑞穂、小山 典子、榎本 俊哉	関連する資格		

授業概要

この特別研究は修士論文として完成させていくものであり、各自研究課題を主査、副査の教員とよく検討して決め、研究計画を立て、緻密に進めていく。その過程の中で、主査、副査に随時指導を受け、発表し、よりよい論文に仕上げていくことをねらいとする。

到達目標

研究課題について研究計画を立てる。
研究計画に従って修士論文として完成する。

成績評価方法

論文作成過程、発表の内容、口頭試問における内容、論文の内容等を総合的に判断する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習	○	○	○	○	○	○	100
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 主査、副査の指導の下、仮題目にそって調査研究などを推し進める。7月の中間報告会での発表を通して、他の教員からの意見を求めディスカッションを深め、その意見も参考にしながらさらに研究を進めていく。	担当教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
2)	
3)	
4)	
5)	
6)	
7)	
8)	
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
指導教員の指摘を理解し、よく調べること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
自分の研究テーマに関連する論文や文献	

課題に対するフィードバック

市の都度行う

備考

科目名	特別研究(修士論文を含む)						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	必修	4	2年	通年(後期)			
担当者名	高田 晃、酒木 保、西村 秀明、三島 瑞穂、小山 典子、榎本 俊哉	関連する資格					
授業概要 この特別研究は修士論文として完成させていくものであり、各自研究課題を主査、副査の教員とよく検討して決め、研究計画を立て、緻密に進めていく。その過程の中で、主査、副査に随時指導を受け、発表し、よりよい論文に仕上げていくことをねらいとする。							
到達目標 研究課題について研究計画を立てる。 研究計画に従って修士論文として完成する。				成績評価方法 論文作成過程、発表の内容、口頭試問における内容、論文の内容等を総合的に判断する。			
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習	○	○	○	○	○	○	100
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 7月の中間報告後、主査、副査の指導の下にさらなる調査研究を進め論文として執筆を進め、12月の報告会ではまとめの発表を行う。1月の中頃には修士論文として提出。その後審査委員会による口頭試問を受ける。	担当教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
2)	
3)	
4)	
5)	
6)	
7)	
8)	
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
指導教員の指摘を理解し、よく調べること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
自分の研究テーマに関連する論文や文献	

課題に対するフィードバック

その都度行う

備考